

PC-over-IP[®] 管理用インターフェース ユーザマニュアル

TER0606004

第5版



Teradici Corporation
#101-4621 Canada Way, Burnaby, BC V5G 4X8 Canada

p +1 604 451 5800 f +1 604 451 5818
www.teradici.com



このドキュメントに含まれる情報は、書類発行日時点における Teradici Corporation の最新の見解を述べています。Teradici は変化する市場動向に対応するので、それを Teradici 側による誓約と解釈すべきではありません。そして Teradici は、書類発行日以降に存在するあらゆる情報の正確性について保証することは出来ません。

このドキュメントは情報の開示を目的とします。TERADICI はこのドキュメントの情報に関して、表現又は暗黙や法律に従う保証を一切行いません。

ユーザには、全ての適切な著作権に従う責任があります。著作権法で定められた権利を制限すること無しに、このドキュメントの複製、盗用あるいは公的システムへの開示、又はあらゆる手段（電子的、機械的、写真、録音その他）による転送は、Teradici Corporation からの書面による許可無しに行う事は出来ません。

Teradici は、このドキュメント中の概念について特許、特許アプリケーション、商標、著作権または他の知的財産権を持つ場合があります。Teradici により明白に提供されたいかなるライセンス契約書無くして、このドキュメントの提出が、これらの特許、商標、著作権またはその他の知的財産に関するライセンスを与えることはありません。

© 2008 Teradici Corporation. All rights reserved.

Teradici、PC-over-IP 及び PCoIP は、Teradici Corporation の登録商標です。
ここに記載される実際の企業及び製品名は、それら所有者の商標である場合があります。

改版履歴

版	日付	記述内容
1	2008年1月15日	初版
2	2008年4月7日	追加定義（定義セクション参照） ファームウェアリリース 0.19 用に更新 <ul style="list-style-type: none"> • PCoIP プロセッサ情報記述を更新（セクション 1/ 図 1-1 参照） • ネットワーク構成ウェブページから VLAN の箇所を削除（セクション 1.6.1 参照） • ネットワークウェブ構成に最大 MTU サイズを追加（セクション 1.6.2.8 参照） • 検出ウェブ構成に DNS SRV を追加（セクション 1.6.4.2 参照） • Session ウェブ構成の順序付けを更新（セクション 1.6.5 参照） • Device Bandwidth Target をバンド幅ウェブ構成に追加（セクション 1.6.6.2 参照） • RDP ウェブ構成を更新（セクション 1.6.7 参照） • Maximum Initial Image Quality を Image ウェブ構成へ追加（セクション 1.6.10.2 参照） • Time ウェブ構成を追加（セクション 1.6.12 参照） • Firmware Part Number を Version ウェブ情報に追加（セクション 1.9.1.1 参照） • Firmware Upload ビルドファイル名ウェブ情報を更新（セクション 1.10.1.1 参照） • RDP OSD 構成を更新（セクション 2.3.7 参照） • Version OSD に Firmware Part Number を追加（セクション 2.5.1.1 参照） • 明確なバンド幅と Image Configuration の例（セクション 4.3 参照） • 別アプリケーションノートの TERA1x00 ファームウェアデフォルト解説を削除 ファームウェアリリース 0.20 用に更新 <ul style="list-style-type: none"> • バンド幅統計を追加（セクション 1.8.3.5 参照） RDP 互換情報を更新（セクション 6 参照）
3	2008年5月26日	ファームウェアリリース 1.00 用に更新 <ul style="list-style-type: none"> • ポータルへ参照するテキスト及び図の更新 • PC-over-IP Half-Duplex に関する互換性について Ethernet Mode セクションへ警告を追加（セクション 1.6.2.7） • Device Bandwidth Limit 及び Device Bandwidth

		Target が適用された際の明確化 (セクション 1.6.6) <ul style="list-style-type: none"> • USB 認可/不認可機能に関する USB 承認ドキュメントの更新 (セクション 1.7.1) • Attached Devices に USB デバイスステータス記述を追加 - USB Devices (セクション 1.9.2.2)
4	2008 年 9 月 12 日	ファームウェアリリース 1.4 用に更新 <ul style="list-style-type: none"> • メニューナビゲーション概要を追加(図 1-2: 管理用ウェブインターフェース概要) • 初期 Setup/Home ウェブページ情報を追加(セクション 1.5) • 初期 Setup ウェブページ詳細を追加 (セクション 1.6.1) • Enable Auto-Reconnect 詳細を更新 (セクション 1.6.5.4) • ホスト用 Ethernet Mode を更新 (セクション 1.6.1.7) • Enable Vista64 Mode を追加 (セクション 1.7.2.3) • Half-Duplex Overlay を追加 (セクション 3.3) Video Source Overlays を追加 (セクション 3.4)
5	2008 年 11 月 25 日	ドキュメントの言い回しの改善及び誤字修正 ファームウェアリリース 1.8 用に更新 書式の調整、ファイルサイズ縮小のため、ビットマップグラフィックを GIF に置き換え

目次

改版履歴.....	2
目次.....	4
図一覧.....	7
表一覧.....	10
定義.....	11
イントロダクション.....	12
1 ADMINISTRATIVE WEB INTERFACE.....	13
1.1 サポートするウェブブラウザ.....	14
1.2 管理用ウェブインターフェース IP アドレス.....	14
1.3 ウェブインターフェースセキュリティ.....	15
1.3.1 CA ルート署名書のインストール.....	15
1.4 ログイン.....	16
1.4.1 警告.....	16
1.4.2 パスワード.....	16
1.4.3 アイドルタイムアウト.....	16
1.5 Home/Initial Setup ウェブページ.....	17
1.5.1 Home.....	17
1.5.2 Initial Setup.....	18
1.6 Configuration メニュー.....	18
1.6.1 Initial Setup.....	19
1.6.2 Network.....	23
1.6.3 Connection Management.....	26
1.6.4 Discovery.....	27
1.6.5 Session.....	28
1.6.6 Bandwidth.....	30
1.6.7 RDP.....	32
1.6.8 Language.....	33
1.6.9 OSD.....	34
1.6.10 Image.....	34
1.6.11 Monitor Emulation.....	36
1.6.12 Time.....	36
1.6.13 Password.....	38
1.6.14 Reset Parameters.....	39
1.7 Permissions メニュー.....	39

1.7.1	USB.....	39
1.7.2	Audio.....	42
1.7.3	Power.....	43
1.8	Diagnostics メニュー	43
1.8.1	Event Log	44
1.8.2	Session Control.....	45
1.8.3	Session Statistics.....	46
1.8.4	Host CPU.....	47
1.8.5	Audio.....	48
1.8.6	Display.....	49
1.8.7	PCoIP Processor	50
1.9	Info メニュー	51
1.9.1	Version.....	51
1.9.2	Attached Devices.....	52
1.10	Upload メニュー	54
1.10.1	Firmware.....	54
1.10.2	OSD Logo.....	55
2	オンスクリーンディスプレイ(OSD)	57
2.1	Connect Screen.....	57
2.1.1	Connect Button	58
2.2	OSD Options メニュー	58
2.3	Configuration ウィンドウ.....	59
2.3.1	Unlocking the Configuration Settings.....	60
2.3.2	Network タブ	60
2.3.3	Connection Management タブ.....	62
2.3.4	Discovery タブ	64
2.3.5	Session タブ	65
2.3.6	Bandwidth タブ	66
2.3.7	RDP タブ.....	67
2.3.8	Language タブ.....	68
2.3.9	OSD タブ.....	69
2.3.10	Reset タブ	70
2.4	Diagnostics ウィンドウ.....	71
2.4.1	Event Log タブ.....	71
2.4.2	Session Statistics タブ	72
2.4.3	PCoIP Processor タブ.....	74
2.4.4	Ping タブ	74
2.5	Information ウィンドウ	75
2.6	User Settings ウィンドウ	77
2.6.1	Mouse タブ.....	77
2.6.2	Keyboard タブ.....	78
2.6.3	Image タブ	78
2.7	Password ウィンドウ.....	79

3	オーバーレイウインドウ	81
3.1	Network Connection Lost オーバーレイ	81
3.2	USB Device Not Authorized オーバーレイ	81
3.3	Half-Duplex オーバーレイ	81
3.4	Video Source オーバーレイ	82
4	付録 A: 使用例	83
4.1	ピアツーピア直接接続例	83
4.1.1	ポータルピアツーピア動作の設定	83
4.1.2	ホストピアツーピア動作の設定	86
4.1.3	ピアツーピアセッションの開始	88
4.2	DHCP 及び Enable Host Discovery の例	89
4.2.1	ポータル DHCP 及び Discovery の設定	89
4.2.2	ホスト DHCP 及び Discovery の設定	92
4.2.3	DHCP Discovery セッションの開始	95
4.3	バンド幅とイメージ設定例	95
4.3.1	ホストバンド幅を 25 Mbps に制限する設定	96
4.3.2	イメージプロパティの設定	98
4.3.3	ホストバンド幅を 0 Mbps に制限 (制限無し).....	100
4.4	USB 承認の例	102
4.4.1	クラスによる USB デバイスの承認	102
4.4.2	Vendor/Product ID による USB デバイスの承認	105
5	付録 B: ポータル言語及びキーボードサポート	108
6	付録 C: ポータル RDP 互換性	110

図一覧

図 1-1: 管理用ウェブインターフェース.....	13
図 1-2: 管理用ウェブインターフェース概要.....	14
図 1-3: Log In ウェブページ.....	16
図 1-4: Home ページ.....	17
図 1-5: Configuration メニューナビゲーション.....	19
図 1-6: Initial Setup ホストウェブページ.....	20
図 1-7: Initial Setup ポータルウェブページ.....	21
図 1-8: Network 設定ウェブページ.....	24
図 1-9: Connection Management 設定ウェブページ(IP アドレス).....	26
図 1-10: Connection Management 設定ウェブページ (FQDN).....	26
図 1-11: Discovery 設定ウェブページ.....	27
図 1-12: Session 設定ウェブページ.....	29
図 1-13: Session 設定ウェブページ (RDP).....	29
図 1-14: Bandwidth 設定ウェブページ.....	31
図 1-15: RDP 設定ウェブページ.....	32
図 1-16: Language 設定ウェブページ.....	33
図 1-17: OSD 設定ウェブページ.....	34
図 1-18: Image 設定ウェブページ.....	35
図 1-19: Monitor Emulation 設定ウェブページ.....	36
図 1-20: Time 設定ウェブページ.....	37
図 1-21: Password 設定ウェブページ.....	38
図 1-22: Reset パラメータウェブページ.....	39
図 1-23: Permissions メニューナビゲーション.....	39
図 1-24: USB 承認ウェブページ.....	40
図 1-25: Audio 承認ウェブページ.....	42
図 1-26: Power 承認ウェブページ.....	43
図 1-27: Diagnostics メニューナビゲーション.....	44
図 1-28: Event Log ウェブページ.....	44
図 1-29: Session Control ウェブページ.....	45
図 1-30: Session Statistics ウェブページ.....	46
図 1-31: Host CPU ウェブページ.....	48
図 1-32: Audio Diagnostics ウェブページ.....	49
図 1-33: Display ウェブページ.....	49

☒ 1-34: PCoIP Processor ウェブページ	50
☒ 1-35: Info メニューナビゲーション	51
☒ 1-36: Version ウェブページ	51
☒ 1-37: Attached Devices ウェブページ	53
☒ 1-38: Upload メニューナビゲーション	54
☒ 1-39: Firmware Upload ウェブページ	54
☒ 1-40: OSD Logo Upload ウェブページ	55
☒ 2-1: OSD Connect Screen	57
☒ 2-2: OSD Connect Screen (接続中)	58
☒ 2-3: OSD Options メニュー	59
☒ 2-4: Setting Unlock OSD	60
☒ 2-5: Network 設定	61
☒ 2-6: Connection Management 設定	63
☒ 2-7: Discovery 設定	64
☒ 2-8: Session 設定	65
☒ 2-9: Bandwidth	66
☒ 2-10: RDP 設定	67
☒ 2-11: Language 設定	69
☒ 2-12: OSD 設定	70
☒ 2-13: Reset	71
☒ 2-14: Event Log	72
☒ 2-15: Session Statistics	73
☒ 2-16: PCoIP Processor	74
☒ 2-17: Ping	75
☒ 2-18: Version	76
☒ 2-19: Mouse	77
☒ 2-20: Keyboard	78
☒ 2-21: Image	79
☒ 2-22: Change Password	80
☒ 3-1: Network Connection Lost オーバーレイ	81
☒ 3-2: USB Device Not Authorized オーバーレイ	81
☒ 3-3: Half-Duplex オーバーレイ	82
☒ 3-4: No Source Signal オーバーレイ	82
☒ 3-5: Source Signal on Other Port オーバーレイ	82
☒ 4-1: ポータル Connection Management ピアツーピア設定	84
☒ 4-2: ポータル Session ウェブページピアツーピア設定	85

図 4-3: ポータル PCoIP Processor ウェブページピアツーピア設定.....	86
図 4-4: ホスト Connection Management ピアツーピア設定.....	87
図 4-5: ホスト Session ウェブページピアツーピア設定.....	88
図 4-6: ピアツーピア Connect Screen.....	89
図 4-7: ポータル Connection Management DHCP 及び Discovery 設定.....	90
図 4-8: ポータル Discovery ウェブページ Enable Discovery 設定.....	91
図 4-9: ポータル Network ウェブページ DHCP 設定.....	91
図 4-10: ポータル PCoIP Processor ウェブページ DHCP 及び Discovery 設定.....	92
図 4-11: ホスト Connection Management DHCP 及び Discovery 設定.....	93
図 4-12: ホスト Discovery ウェブページ Enable Discovery 設定.....	93
図 4-13: ホスト Network ウェブページ DHCP 設定.....	94
図 4-14: ホスト PCoIP Processor ウェブページ DHCP 及び Discovery 設定.....	94
図 4-15: DHCP Discovery Connect スクリーン.....	95
図 4-16: 検出された Hosts スクリーン.....	95
図 4-17: 簡略化されたユーザバンド幅要求(100 Mbps と仮定).....	96
図 4-18: ホスト Bandwidth Limit 設定(25 Mbps).....	97
図 4-19: 簡略化されたユーザバンド幅要求(25 Mbps).....	98
図 4-20: ポータル Minimum Image Quality 設定.....	99
図 4-21: ホスト Bandwidth Limit 設定(0 Mbps、制限無し).....	101
図 4-22: 簡略化されたユーザバンド幅要求(制限無し).....	101
図 4-23: USB Permissions の例 : Add new ボタン.....	102
図 4-24: USB Permissions の例 : Class Entry Type の選択.....	103
図 4-25: USB Permissions の例 : Device Class の選択.....	103
図 4-26: USB Permissions の例 : Sub Class の選択.....	104
図 4-27: USB Permissions の例 : Protocol の選択.....	104
図 4-28: USB Authorization の例 : Class Authorization.....	105
図 4-29: USB Permissions の例 : Add new ボタン.....	105
図 4-30: USB Permissions の例 : Class Entry Type の選択.....	106
図 4-31: USB Permissions の例 : Vendor ID 及び Product ID の入力.....	106
図 4-32: USB Permissions の例 : Vendor ID 及び Product ID の承認.....	107

表一覧

表 1-1: Home ウェブページパラメータ	18
表 1-2: Step 1: Audio パラメータ	22
表 1-3: Step 2: Network パラメータ	22
表 1-4: Step 3: Host Session パラメータ	23
表 1-5: Step 3: Portal Session パラメータ	23
表 1-6: コネクションマネージャの方法.....	27
表 1-7: Peer 識別子の方法	30
表 1-8: NTP ホストの方法	37
表 1-9: USB デバイス承認エントリタイプ.....	40
表 1-10: USB デバイス非承認エントリタイプ	41
表 1-11: VPD 情報	52
表 1-12: Firmware 情報	52
表 1-13: VPD 情報	52
表 1-14: USB デバイスステータス.....	53
表 2-1: Connection Manager の方法	63
表 2-2: Peer Identity の方法	65
表 2-3: VPD 情報	76
表 2-4: Firmware 情報	76
表 2-5: Firmware 情報	77
表 5-1: ポータルのサポートする言語	108
表 5-2: ポータルのサポートするキーボードレイアウト	108
表 6-1: ポータル RDP 性能.....	110

定義

CA	Certificate Authorities
CMI	Connection Management Interface – ポータルまたはホストにより提供されるインターフェース、外部コネクションマネージャサーバとの通信に使われます。
CMS	Connection Management Server – CMI インターフェースを通じてポータル/ホストを管理及び制御する外部マネジメントエンティティ (サードパーティ)
DDC	Display Data Channel
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DNS	Domain Name System
DNS SRV	Domain Name System Service Record
EDID	Extended Display Identification Data
FQDN	Fully Qualified Domain Name
GPU	Graphics Processing Unit
GUI	PC-over-IP セッション動作中でない場合に、ポータル On-Screen Display で提供される Graphical User Interface
HPDET	Hot Plug Detect
MTU	Maximum Transmission Unit
NTP	Network Time Protocol
OS	Operating System
OSD	On Screen Display
PC-over-IP [®]	Personal Computer over Internet Protocol
PC-over-IP Host	ホスト側の PC-over-IP システム
PC-over-IP Portal	ポータルまたはデスクトップがわいの PC-over-IP システム
PCoIP [®]	Personal Computer over Internet Protocol (PC-over-IP)
RDP	Remote Desktop Protocol
SLP	Service Location Protocol
SSL	Secure Socket Layer (セキュリティプロトコル)
TERA1100	PC-over-IP ポータル機能をサポートする Teradici デバイス
TERA1200	PC-over-IP ホスト機能をサポートする Teradici デバイス
VPD	Vital Product Data – ポータルまたはホストを識別する工場で作られた情報
VPN	Virtual Private Network

イントロダクション

ユーザ及び管理者は、内蔵のHTTPS ウェブインターフェースを使い、PC-over-IP®、または PCoIP®、ポータル及びホストを利用します。ポータルは、ローカルグラフィカルユーザインターフェース(GUI)オンスクリーンディスプレイ(OSD)によりアクセス可能です。メッセージもまた、必要に応じてユーザスクリーン上に表示されます。

ユーザは、セッションの接続または切断、診断の確認及びユーザパラメータを設定することができます。管理者は構成設定及びユーザ承認の確認及び変更、PCoIP デバイスへのデータのアップロード、セッション診断と製品情報の確認ができます。

インターフェースは高いアクセス性を持ち、そして知識習得期間の最短化を目的としたタスク指向型で構成されています。さらにウェブインターフェースと OSD は、全体の知識習得期間を最短化するために、可能な限り類似するようまとめられています。

このドキュメントは、PCoIP ホスト及びポータルユーザインターフェースについて説明します。もしも、ホスト（ホストのみ）またはポータル（デスクトップサイドのみ）でのみ利用可能な機能がある場合、その都度はっきりと説明します。

このドキュメントには3つのセクションがあります。：

- セクション 1 PCoIP 管理用ウェブインターフェースの詳細
- セクション 2 ポータルのオンスクリーンディスプレイ(OSD)の説明
- セクション 3 ユーザメッセージ オーバーレイウインドウの議論

付録に含まれるのは：

- 付録 A: 使用例
- 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポート
- 付録 C: ポータル RDP 互換性

このドキュメントは、管理者及びユーザに PCoIP システムの実動作に関する知識を提供する事を目的としています。

注意：PCoIP 管理用ウェブインターフェース及びオンスクリーンディスプレイ構成機能は、コネクションマネジメントサーバ用のアプリケーションプログラムインターフェース (API) から利用可能です。しかしながら、API の詳細はこのドキュメントの範囲外です。

1 管理用ウェブインターフェース

PCoIP 管理用ウェブインターフェースは、管理者がインターネットブラウザを使いデバイスへ遠隔接続することを可能とします。

図 1-1 は管理用ウェブインターフェースの 7 つの領域が選択された様子の例を示しています。：

- Log Out: 管理用ウェブインターフェースからログアウトします。
- PCoIP Processor: PCoIP プロセッサ情報を表示します。
 - TERA1100 Portal PCoIP[®] Processor
 - TERA1200 Host PCoIP[®] Processor
- Home: Home ウェブページへいきます。
- ドロップダウンメニュー: Configuration、Permissions、Diagnostics、Info そして Upload の 5 つのメニューです。
- ウェブページ情報: 現在のウェブページのタイトル及び要約を表示します。
- Data field: 管理者が現在のウェブページから構成できる編集可能及び / または表示されたパラメータを表示します。(必要性に応じてインラインヘルプを表示)
- Apply/Cancel: 編集可能な全てのウェブページには、Apply ボタン及び Cancel ボタンがあります。
 - Apply を選択すると、フラッシュに編集されたパラメータを保存します。
 - Cancel を選択すると、編集されたパラメータをフラッシュに現在保存されている値にリセットします。

図 1-1: 管理用ウェブインターフェース

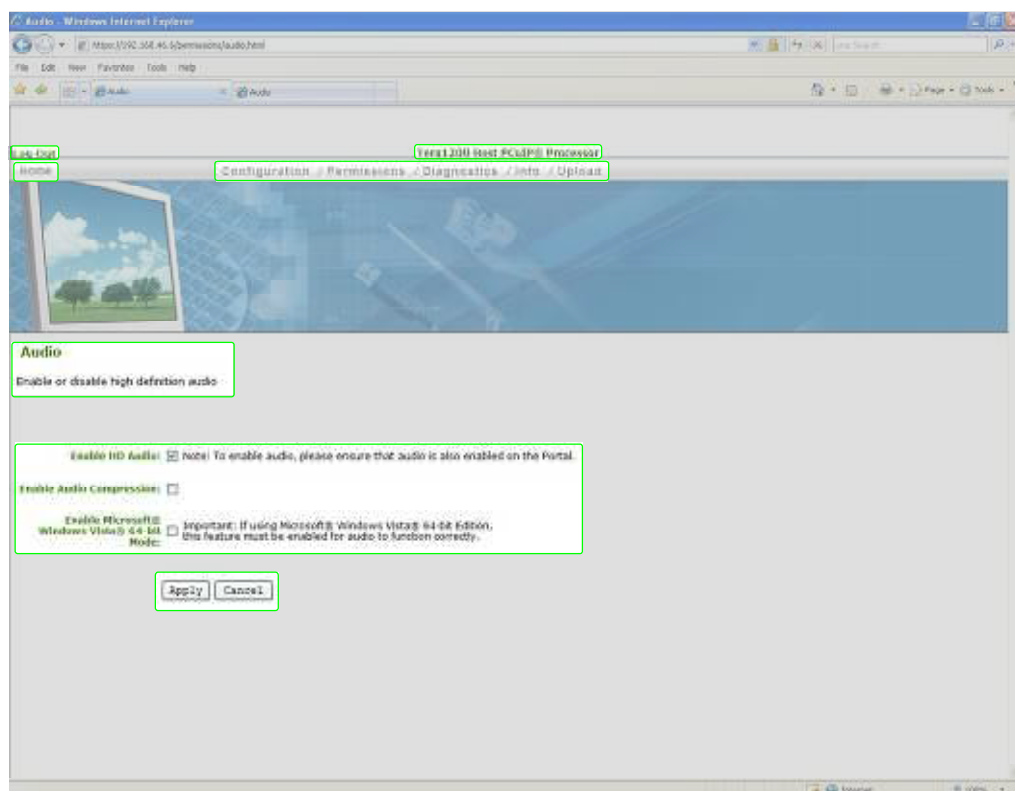
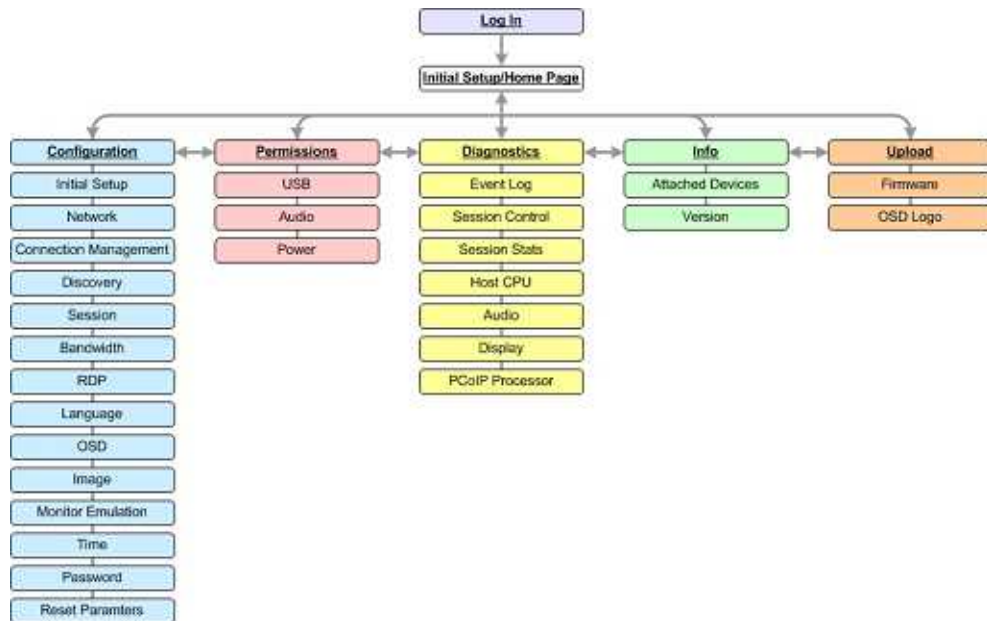


図 1-2 は、管理用ウェブインターフェースで利用可能な構成ウェブページの概要を表しています。

図 1-2: 管理用ウェブインターフェース概要



1.1 サポートするウェブブラウザ

ホスト及びポータルのウェブページサーバは、以下のウェブブラウザとのテストが行われ互換であることが確認されています。：

- ファイアフォックス 1.5、2.0 及び 3.0
- インターネットエクスプローラ 6.0 及び 7.0

他のブラウザも互換性がある場合があります。

お使いになるブラウザに CA ルート署名書をインストールすることを強く推奨します。
(セクション 1.3.1 参照)

注意: ファイアフォックス 3.0 では CA ルート証明書のインストールが必要です。

1.2 管理用ウェブインターフェース IP アドレス

管理用ウェブインターフェースへアクセスするには、ホストまたはポータルの IP アドレスへブラウズしなければなりません。使われる IP アドレスは、お使いの IP ネットワークにより決定されます。：

- スタティック IP アドレス：IP アドレスは固定で既知でなければなりません。
- ダイナミック IP アドレス：IP アドレスはダイナミックホストコンフィグレーションプロトコル(DHCP)サーバにより動的に割り当てられ、DHCP サーバから取得できます。

管理者が IP アドレスを決定したら、例えば `https://192.168.1.123` とブラウザへ入力し管理用ウェブインターフェースへアクセスします。

1.3 ウェブインターフェースセキュリティ

ウェブインターフェースは SSL ソケット (HTTPS) 上で HTTP を使い、管理者パスワード無しではアクセスできません。HTTPS 接続は、Teradici の自己署名証明により安全が確保されます。

1.3.1 CA ルート証明のインストール

管理者は、インターネットブラウザのセキュリティ警告を避けるために Certificate Authorities (CA) ルート証明をインストールできます。インターネットエクスプローラ 7 及びファイアフォックスに、証明書をインストールする手順を次に詳しく説明します。 :

インターネットエクスプローラ 7

1. *Tools* メニューを開き、*Internet Options* を選びます。
2. *Content* タブで *Certificates* を選びます。
3. *Trusted Root Certification Authorities* タブでインポートを選びます。
4. 証明書をインポートする手順に従います。 *Trusted Root Certification Authorities* 証明書ストアを使う事を確認してください。

注意：証明書によりブラウズする際、**ファイルタイプ**を **all files** に変更する必要がある場合があります。

ファイアフォックス

1. *Tools* メニューを開き *Options* を選びます。
2. ウィンドウのトップで *Advanced* と書かれたアイコンを選びます。
3. *Encryption* タブで *View Certificates* を選びます。
4. *Authorities* タブで *Import* を選びます。
5. 証明書をインポートする手順に従います。 *Trust this CA to identify web sites* と書かれたオプションがチェックされている事を確認してください。

1.4 ログイン

Log In ページにより、管理用ウェブページへの安全なログインが可能です。

図 1-3: Log In ウェブページ



Log In

Please enter the administrative password to access this device.

Warning: A session already exists for a user at **192.168.1.101**. This session has been inactive for **32 seconds**, and will **never expire**. If you continue with your login, that user's session **will be terminated**.

Password:

Idle Timeout:

1.4.1 警告

Warning は管理用セッションが既に実行中の場合に、管理者がログインしているデバイスに関する適切な情報を表示します。デバイス 1 つに対して 1 人の管理者が許可されません。セッションへのログインは、実行中の他のあらゆる管理用セッションを中断します。

1.4.2 パスワード

Password フィールドには、管理用ウェブページへのアクセスを取得するためのパスワードの入力が可能です。デフォルト値は空白「 」です。

パスワード変更の情報については、セクション 1.6.13 を参照してください。

1.4.3 アイドルタイムアウト

Idle Timeout フィールドでは、管理用アイドルタイムアウトを設定します。設定可能なオプションは：

- 1 分
- 5 分
- 15 分
- 30 分
- 無限

1.5 Home/Initial Setup ウェブページ

管理者がログインすると、*Home* ウェブページが表示されます。*Home* ウェブページはステータスの概要を提供します。

ファームウェアデフォルトページが設定されていると、管理者が始めてログインした場合に *Initial Setup* ページが使われます。その後は、ファームウェアパラメータがリセットされない限り *Home* が表示されます。(セクション 1.6.14 Reset Parameters 参照)

1.5.1 Home

Home ウェブページはホストまたはポータルの要約を提供します。このページは、メニューバーの左上にある *Home* リンクから何時でもアクセスする事ができます。

図 1-4: Home ページ

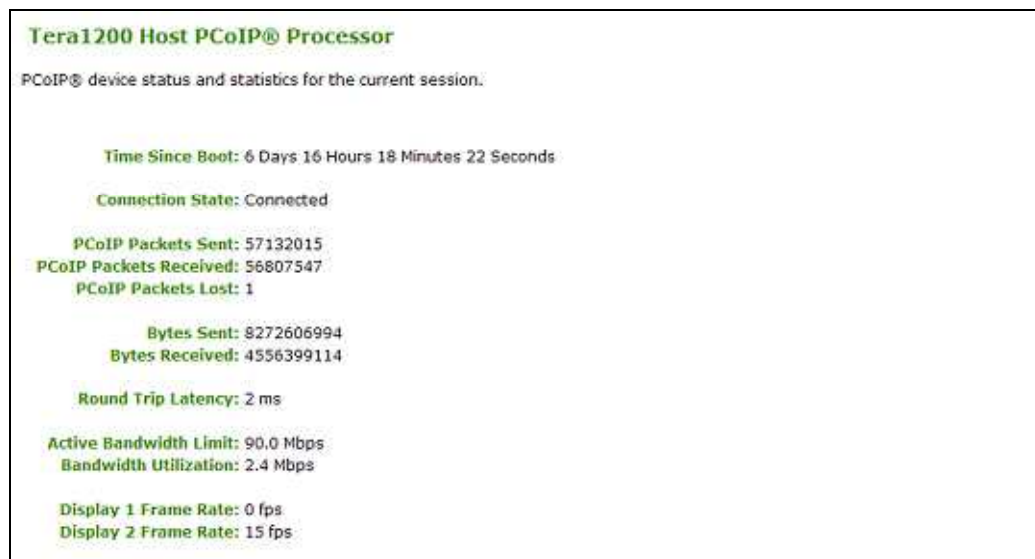


表 1-1 は *Home* ウェブページで表示される情報フィールドを要約しています。

表 1-1: Home ウェブページパラメータ

パラメータ	コメント
Time since boot	PCoIP プロセッサが動作し始めてからの経過時間(セクション 1.8.7 参照)
Connection State	考えられる状態 : Disconnected、Connection Pending、Connected (セクション 1.8.3 参照)
Packet Statistics	送信パケット (セクション 1.8.3 参照)
	受信パケット (セクション 1.8.3 参照)
	失われたパケット (セクション 1.8.3 参照)
Byte Statistics	送信バイト (セクション 1.8.3 参照)
	受信バイト
Round Trip Latency	ネットワーク往復のおおよその遅延。例えばポータルからホスト、そしてポータルへ戻る (セクション 1.8.3 参照)
Bandwidth Stats:	Active bandwidth Limit は PCoIP プロセッサが生成するバンド幅です。 (セクション 1.8.3 参照)
	Bandwidth Utilization は、現在使用中のおよそのバンド幅です。 (セクション 1.8.3 参照)
Display Frame Rates	PCoIP を通じたビデオコンテンツ用の Display Rate です。例えば何も変化が無ければ、フレームレートは 0 fps です。 (セクション 1.8.3 参照) このフィールドは、ホスト上に限り利用できます。ポータル上では表示されません。

1.5.2 Initial Setup

Initial Setup ウェブページには、ホスト及びポータルデバイスを使う場合に管理者が初めに設定すべきパラメータがあります。詳細はセクション 1.6.1 Initial Setup を参照してください。

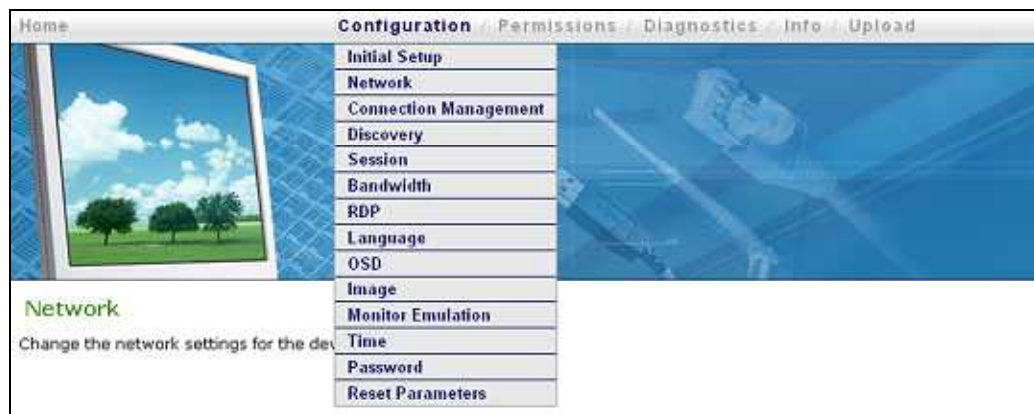
1.6 Configuration メニュー

Configuration メニューは、デバイスがそれらの環境でどのように動作、作用するかを定義するページへのリンクを含みます。*Configuration* メニューにあるウェブページは：

-
- Network
- Connection Management
- Discovery
- Session

- Bandwidth
- RDP
- Language
- OSD
- Image
- Monitor Emulation
- Time
- Password
- Reset Parameters

図 1-5: Configuration メニューナビゲーション



1.6.1 Initial Setup

Initial Setup ウェブページは、ホスト及びポータルデバイスを使う場合に管理者が初めに設定すべき構成パラメータを含みます。ウェブページは、製品開封後の初めのユーザが 1 対 1 の PColP セッションを作る時間を節約します。ホスト検出やコネクションマネージメントを使うような複雑な環境には、さらに設定が必要です。

ホスト及びポータルの *Initial Setup* ウェブページは同一ではなく、ホストまたはポータルのそれぞれに適したパラメータを提供します。

図 1-6: Initial Setup ホストウェブページ

Initial Setup (1:1 Manual Configuration)

These settings must be configured before the device is used for the first time

Step 1: Audio

Enable HD Audio: Note: To enable audio, please ensure that audio is also enabled on the Portal.

Enable Microsoft® Windows Vista® 64-bit Mode: Important: If using Microsoft® Windows Vista® 64-bit Edition, this feature must be enabled for audio to function correctly.

Step 2: Network

Enable DHCP:

IP Address:

Subnet Mask:

Gateway:

Primary DNS Server:

Secondary DNS Server:

Step 3: Session

Accept Any Portal:

Portal MAC Address:

Step 4: Apply Changes

図 1-7: Initial Setup ポータルウェブページ

Initial Setup (1:1 Manual Configuration)

These settings must be configured before the device is used for the first time

Step 1: Audio

Enable HD Audio: Note: To enable audio, please ensure that audio is also enabled on the Host.

Step 2: Network

Enable DHCP:

IP Address:

Subnet Mask:

Gateway:

Primary DNS Server:

Secondary DNS Server:

Step 3: Session

Session Type:

Identify Host by: IP address FQDN (RDP only)

Host IP Address:

Host MAC Address:

Step 4: Apply Changes

1.6.1.1 Step 1: Audio

Step 1: Audio により管理者はオーディオパラメータを構成することができます。表 1-2 は適切なパラメータの要約です。

表 1-2: Step 1: Audio パラメータ

パラメータ	コメント
Enable HD Audio	ホストまたはポータル上のオーディオサポートをイネーブルします。(セクション 1.7.2 参照)
Enable Microsoft® Windows Vista® 64-bit Mode	<p>ホスト上で 64 ビットモードをイネーブルします。(セクション 1.7.2 参照)このモードは、Vista-64 に限り使うことができます。</p> <p><i>このオプションは、ホスト上でのみ利用できます。ポータル上では表示されません。</i></p> <p><i>注意：Linux または Windows XP (32 ビットまたは 64 ビット)では、64 ビットモードをイネーブルする必要はありません。セクション 1.7.2 参照</i></p>

1.6.1.2 Step 2: Network

Step 2: Network により管理者はネットワークパラメータを構成する事ができます。表 1-3 は適切なパラメータの要約です。

表 1-3: Step 2: Network パラメータ

パラメータ	コメント
Enable DHCP	DHCP またはマニュアル設定をイネーブルします。セクション 1.6.2 参照)
IP Address	デバイスの IP アドレス (セクション 1.6.2 参照)
Subnet Mask	デバイスのサブネットマスク (セクション 1.6.2 参照)
Gateway	デバイスのゲートウェイ IP アドレス (セクション 1.6.2 参照)
Primary DNS Server	デバイスのプライマリ DNS IP アドレス (セクション 1.6.2 参照)
Secondary DNS Server	デバイスのセカンダリ DNS IP アドレス (セクション 1.6.2 参照)

1.6.1.3 Step 3: Session

Step 3: Session により管理者は、セッションパラメータを設定する事ができます。表 1-4 は適切なパラメータの要約で、表 1-5 はポータルパラメータを表しています。

表 1-4: Step 3: Host Session パラメータ

パラメータ	コメント
Accept Any Portal	PCoIP セッション用に、あらゆるポータルを受け入れをホストに許可します。(セクション 1.6.5 参照)
Portal MAC Address	PCoIP セッション用にポータル MAC アドレスを指定することを管理者に許可します。(セクション 1.6.5 参照)

表 1-5: Step 3: Portal Session パラメータ

パラメータ	コメント
Session Type	PCoIP または RDP セッションを指定します。(セクション 1.6.5 参照)
Identify Host by	ホスト識別手段を指定します。(セクション 1.6.5 参照)
Host IP Address	ホスト IP アドレスを指定します。(セクション 1.6.5 参照)
Host MAC Address	ホスト MAC アドレスを指定します。(セクション 1.6.5 参照)

注意：ポータル上でホスト検出またはコネクションマネージメントがデフォルトで構成されている場合、ポータルセッションパラメータを変更することは出来ません。**Step 3: Session** パラメータではなく、初期設定ポータルウェブページ上にメッセージが表示されます。

1.6.1.4 Step 4: Apply Changes

Step 4: Apply Changes は上記のステップで作成されたパラメータ更新を、適用することを管理者に許可します。パラメータは、Apply が選択されるまで更新されません。

1.6.2 Network

Network ウェブページは、ポータル及びホストネットワークパラメータの設定を管理者に許可します。

注意：ポータル Network パラメータはポータル OSD を使い構成することも出来ます。セクション 2.3.2 Network 参照。

図 1-8: Network 構成ウェブページ

Network

Change the network settings for the device

Enable DHCP:

IP Address: 192, 168, 21, 29

Subnet Mask: 255, 255, 254, 0

Gateway: 192, 168, 21, 1

Primary DNS Server: 0, 0, 0, 0

Secondary DNS Server: 0, 0, 0, 0

Ethernet Mode: Auto

Maximum MTU Size: 1400 bytes

Apply Cancel

1.6.2.1 Enable DHCP

Enable DHCP オプションがイネーブルされている場合、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ IP アドレスそして DNS サーバの割り当てのために、デバイスは DHCP サーバへ接続します。このオプションがディセーブルされている場合、これらのパラメータはマニュアルで設定されなければなりません。

1.6.2.2 IP Address

IP Address は、デバイスの IP アドレスです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

1.6.2.3 Subnet Mask

Subnet Mask は、デバイスのサブネットマスクです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

警告： ホストへの到達を不可能とするような、不正な IP アドレス / サブネットマスクの組み合わせ（不正なマスク）を設定することは不可能ではありません。サブネットマスクの設定には細心の注意が必要です。

1.6.2.4 Gateway

Gateway は、デバイスのゲートウェイ IP アドレスです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

1.6.2.5 Primary DNS Server

Primary DNS Server は、デバイスのプライマリ DNS IP アドレスです。このフィールドはオプションです。コネクションマネージャを使い DNS サーバ IP アドレスを設定すると、コネクションマネージャアドレスは IP アドレスではなく、FQDN としてセットされます。(セクション 1.6.3.2 参照) このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

1.6.2.6 Secondary DNS Server

Secondary DNS Server は、デバイスのセカンダリ DNS IP アドレスです。このフィールドはオプションです。コネクションマネージャを使い DNS サーバ IP アドレスを設定すると、コネクションマネージャアドレスは IP アドレスではなく、FQDN としてセットされます。(セクション 1.6.3.2 参照) このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

1.6.2.7 Ethernet Mode

Ethernet Mode フィールドは、ホストまたはポータルのイーサネットモードを設定します。設定可能なオプションは：

- Auto
- 10 Mbps Full-Duplex
- 100 Mbps Full-Duplex

管理者が **10 Mbps Full Duplex** または **100 Mbps Full-Duplex** を選択し **Apply** ボタンを選ぶと、次の警告が表示されます。：

Warning: When Auto-Negotiation is disabled on the PCoIP device, it must also be disabled on the switch. Additionally, the PCoIP device and switch must be configured to use the same speed and duplex settings. Different settings may result in a loss of network connectivity. Are you sure you want to continue?

パラメータ設定を変更するには、管理者は **OK** を選択しなければなりません。

注意：管理者は、**Ethernet Mode** を常に **Auto** にセットし、例えばスイッチ等の他のネットワーク機器が 10M Mbps Full-Duplex または 100M Mbps に設定されている際に限り、**10 Mbps Full-Duplex** または **100 Mbps Full-Duplex** に設定します。不適切に設定された Ethernet Mode が原因で、ネットワークが Half-Duplex で動作する場合があります。Half-Duplex は PCoIP でサポートされませんので、セッションは著しく低下し、いずれ切断されてしまいます。

1.6.2.8 Maximum MTU Size

Maximum MTU Size オプションにより管理者は、最大伝送単位(MTU) パケットサイズを設定する事ができます。PCoIP パケットは断片化する事が出来ないため、VPN トンネリングなどの状況下では、より小さな MTU が必要となることがあります。*Maximum MTU Size* は、ホスト及びポータル間の両端接続のネットワークパス MTU よりも小さな値にセットする必要があります。*Maximum MTU Size* の設定範囲は、500 から 1500 バイトです。

1.6.3 Connection Management

Connection Management ウェブページにより、管理者はコネクションマネージャをイネーブルまたはディセーブルする事が出来ます。そして、コネクションマネージャの IP アドレスを指定します。

管理された接続下では、外部コネクションマネージャサーバはデバイスとの通信を行ったり、デバイスを遠隔操作し設定することが出来ます。さらにコネクションマネージャは、デバイスの接続に最適な相手を見つけ出し接続を開始する事が出来ます。コネクションマネージャは、大規模で複雑なシステムの管理を大幅に簡素化することが出来ます。

注意：ポータルコネクションマネジメントパラメータは、ポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.3.3 Connection Management を参照してください。

図 1-9: Connection Management 設定ウェブページ(IP アドレス)



The screenshot shows the 'Connection Management' web page. The title is 'Connection Management' and the subtitle is 'Configure the device for a managed connection'. The page contains the following fields and controls:

- 'Enable Connection Management:' with an unchecked checkbox.
- 'Identify Connection Manager by:' with radio buttons for 'IP address' (selected) and 'FQDN'.
- 'Connection Manager IP Address:' with four input boxes for IP address digits.
- 'Enable Event Log Notification:' with an unchecked checkbox.
- 'Enable Diagnostic Log:' with an unchecked checkbox.
- 'Apply' and 'Cancel' buttons at the bottom.

図 1-10: Connection Management 設定ウェブページ(FQDN)



The screenshot shows the 'Connection Management' web page with the 'FQDN' configuration selected. The title is 'Connection Management' and the subtitle is 'Configure the device for a managed connection'. The page contains the following fields and controls:

- 'Enable Connection Management:' with a checked checkbox.
- 'Identify Connection Manager by:' with radio buttons for 'IP address' and 'FQDN' (selected).
- 'Connection Manager DNS Name:' with a single text input field.
- 'Enable Event Log Notification:' with an unchecked checkbox.
- 'Enable Diagnostic Log:' with an unchecked checkbox.
- 'Apply' and 'Cancel' buttons at the bottom.

1.6.3.1 Enable Connection Management

Enable Connection Management オプションがイネーブルであると、デバイスは外部コネクションマネージャにより設定及び制御することが可能です。

1.6.3.2 Identify Connection Manager By

Identify Connection Manager By セレクタにより管理者は、コネクションマネージャが IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN) により認識されるかを選択する事が出来ます。コネクションマネージャがディセーブルのときは、このフィールドは編集不可能なので必要ありません。

Table 1-6 は、それぞれの方法が選択された時に利用可能な設定パラメータを表示しています。無効な IP アドレスや DNS ネームが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

Table 1-6: コネクションマネージャの方法

方法	データフィールド	図
IP アドレス	Connection Manager IP アドレス	図 1-9 参照
FQDN	Connection Manager DNS ネーム	図 1-10 参照

1.6.3.3 Enable Event Log Notification

Event Log Notification フィールドは、PCoIP ホスト及びポータルデバイスが、それらのイベントログの内容をコネクションマネージャサーバへ送るかどうかを制御します。

1.6.3.4 Enable Diagnostic Log


Enable Diagnostic Log フィールドは、PCoIP ホスト及びポータルデバイスのイベントログに特定のデバッグメッセージを書き込むかどうかを制御します。

1.6.4 Discovery

Discovery 設定ウェブページにより、PCoIP システムにおいてポータル及びホストの検出を容易にする機能が利用できます。

注意：ポータル検出パラメータはポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.3.4 *Discovery* を参照してください。

図 1-11: Discovery 設定ウェブページ



1.6.4.1 SLP Discovery

Enable SLP Discovery

Enable SLP Discovery オプションがイネーブルされていると、ネットワークにおけるそれらの位置情報を事前に知らずとも、SLP マネージメントによりホスト及びポータルを動的に検出することが出来ます。

検出メカニズムを使うことで、複雑なシステムのメンテナンス及び設定の手間を大幅に削減する事ができます。この検出メカニズムは、DNS SRV 検出とは無関係です。

Enable Host Discovery

Enable Host Discovery 機能により、ポータルは PCoIP セッションに存在しないホストを検出することが出来ます。

これがイネーブルされていると、ポータルは検出された順番に 10 までの利用可能ホストを表示する事が出来ます。Enable Host Discovery 機能は少数のホストと共に使われる事が考えられます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

1.6.4.2 DNS SRV Discovery

Enable DNS SRV

Enable DNS SRV オプションがイネーブルされていると、ネットワークにおけるそれらの位置情報を事前に知らずとも、DNS SRV リソースレコードにより動的にホスト及びポータルを検出する事が出来ます。

検出メカニズムを使うことで、複雑なシステムのメンテナンス及び設定の手間を大幅に削減する事ができます。この検出メカニズムは、SLP 検出とは無関係です。

DNS SRV Discovery Delay

DNS SRV Discovery Delay には、DNS SRV Discovery 間の遅延時間を秒単位で設定します。DNS SRV Discovery は、デバイスがコネクションマネージメントサーバとの接続に成功するまで定期的に続けられます。

1.6.5 Session

Session ウェブページにより管理者は、デバイスとの接続または相手デバイスからの接続をどのように行うかを設定できます。

注意：ポータルセッションパラメータはポータル OSD を使い設定する事も可能です。セクション 2.3.5 Session を参照してください。

図 1-12: Session 設定ウェブページ

Session
Configure the connection to a peer device

Accept Any Peer (host only):

Session Type (portal only): PCoIP

Identify Peer by: IP address FQDN (RDP only)

Peer IP Address: 192 . 168 . 20 . 29

Peer MAC Address: 00 - 1E - 37 - 08 - 09 - 93

Enable Auto-Reconnect (portal only):

Session Timeout: 30 seconds

Apply Cancel

図 1-13: Session 設定ウェブページ(RDP)

Session
Configure the connection to a peer device

Accept Any Peer (host only):

Session Type (portal only): RDP

Identify Peer by: IP address FQDN (RDP only)

Peer IP Address: 192 . 168 . 46 . 24

Peer MAC Address: - - - - -

Enable Auto-Reconnect (portal only):

Session Timeout: 30 seconds

Apply Cancel

1.6.5.1 Accept Any Peer

Accept Any Peer オプションがイネーブルされていると、ホストはあらゆるポータルからの接続を受け入れます。このオプションがディセーブルのときは、管理者は相手の MAC アドレスを指定しなければなりません。

このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

1.6.5.2 Session Type

管理者はPCoIP セッションまたは RDP セッションを選択できます。

ポータル RDP クライアントの情報については、セクション 6 付録 C: ポータル RDP 互換性を参照してください。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.6.5.3 Identify Peer By

Identify Peer By セレクタにより管理者は、相手側デバイスが IP 及び MAC アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN) により識別されるかを選ぶ事が出来ます。Accept Any Peer がイネーブルの場合、これらのフィールドは必要がなく編集不可能です。

表 1-7 は、それぞれの方法において利用可能な Peer 識別子を表示しています。無効な IP アドレスまたは DNS ネームが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

表 1-7: Peer 識別子の方法

Peer 識別子方法	データフィールド	コメント	☒
Peer IP/MAC	Peer IP アドレス(ポータルのみ)	PCoIP またはポータル RDP クライアント	☒ 1-12 参照
	Peer MAC アドレス	PCoIP	
Peer FQDN	Peer DNS ネーム	ポータル RDP クライアントとのみ使用	☒ 1-13 参照

1.6.5.4 Enable Auto-Reconnect

Enable Auto-Reconnect オプションによりポータルは、セッションが失われた際に最後に接続していたホストに自動的に再接続する事が出来ます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.6.5.5 Session Timeout

Session Timeout は接続のタイムアウトを設定します。PCoIP プロセッサがタイムアウト期間内にネットワークを検出しないと、PCoIP プロセッサはセッションを切断します。

1.6.6 Bandwidth

Bandwidth ウェブページによりデバイスバンド幅は PCoIP セッション用に制限されます。

注意：ポータルバンド幅はポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.3.6 Bandwidth を参照してください。

図 1-14: Bandwidth 設定ウェブページ

Bandwidth
Configure the device bandwidth limit

Device Bandwidth Limit: Mbps (0 = no limit)

Device Bandwidth Target: Mbps (0 = disabled)

1.6.6.1 Device Bandwidth Limit

Device Bandwidth Limit パラメータは、PCoIP システムの最大バンド幅ピークを定義します。ホスト側のバンド幅設定は、ホストからポータル側のバンド幅を定義します。（例えばグラフィックデータ）そしてポータル側のバンド幅設定は、ポータルからホストのバンド幅を定義します。（例えば USB データ）使用可能なバンド幅の範囲は、3 から 220 Mbps です。

PCoIP プロセッサは、必要なバンド幅を *Device Bandwidth Limit* の最大値まで使い続けます。PCoIP プロセッサはネットワークの混雑状況に応じて動的にバンド幅を調整します。

Device Bandwidth Limit を 0 にすると、ネットワークの混雑状況に応じてバンド幅を調整するように PCoIP プロセッサを設定します。混雑が無い状態では、バンド幅の制限はありません。つまりプロセッサは利用可能な最大レートを使います。

Device Bandwidth Limit は、ポータル及びホストが接続されているネットワークの限界にセットすることを推奨します。

Device Bandwidth Limit の設定例については、セクション 4.3 バンド幅とイメージ設定例を参照してください。

注意： *Device Bandwidth Limit* は、管理者が **Apply** を選択すると即座に適用されます。

1.6.6.2 Device Bandwidth Target

Device Bandwidth Target パラメータは、混雑期間（パケット損失）のネットワークバンド幅のソフト限界を定義します。ネットワークが混雑すると、デバイスバンド幅はターゲット値までは急激に、それ以下では緩やかに削減されます。これにより、混雑したネットワークリンクを共有するユーザ間で、より平等にバンド幅を提供できます。管理者は、この値をゼロ以外の値にセットする前に、ネットワークトポロジに関して十分な理解が必要です。

注意： *Device Bandwidth Target* は、**Apply** 選択後に新たな PCoIP セッションが開始された時に適用されます。

1.6.7 RDP

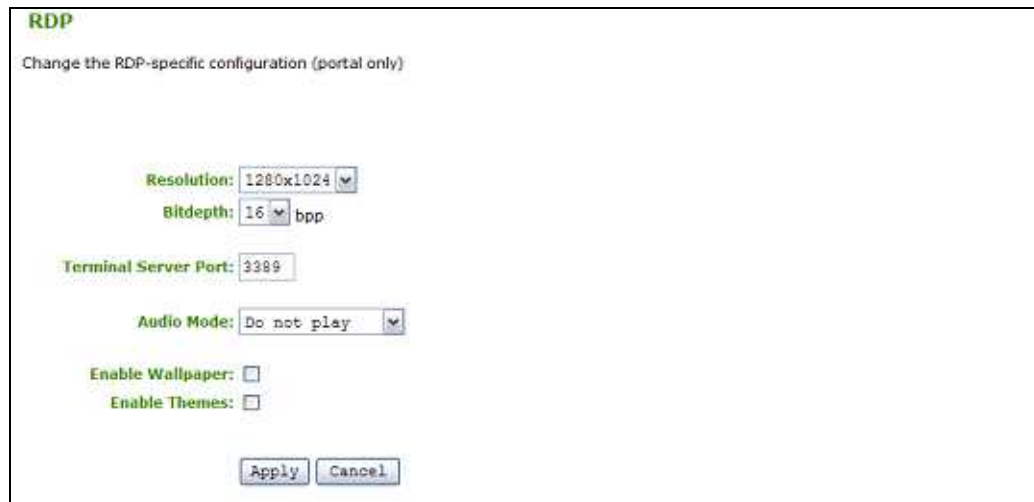
RDPウェブページにより、管理者は Remote Desktop Protocol (RDP) に特化したデバイス設定を構成する事が出来ます。

ポータルRDPクライアントの情報については、セクション 6 付録 C: ポータルRDP 互換性を参照してください。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

注意：ポータルRDPパラメータは、ポータルOSDを使い設定することも出来ます。セクション 2.3.7 RDP を参照してください。

図 1-15: RDP 設定ウェブページ



1.6.7.1 Resolution

Resolution は、RDP スクリーン解像度設定です。設定可能な値は：

- 800x600
- 1024x768
- 1280x768
- 1280x1024
- 1440x900
- 1600x1200
- 1680x1050
- 1920x1200

1.6.7.2 Bit Depth

Bit Depth は、RDP セッションカラービットの深さです。設定可能な値は：

- 8 bpp (ピクセル毎のビット数)
- 16 bpp
- 24 bpp

1.6.7.3 Terminal Server Port

Terminal Server Port は、RDP クライアントが接続するポート番号をセットします。

1.6.7.4 Audio Mode

Audio Mode フィールドは、RDP セッションにおいてオーディオ再生を行う場所を設定します。設定可能なオプションは：

- Do not play (再生しない)
- Play on client (クライアント上で再生)
- Play on host (ホスト上で再生)

1.6.7.5 Enable Wallpaper

Enable Wallpaper フィールドは、RDP セッションでの壁紙の使用をイネーブルします。

1.6.7.6 Enable Themes

Enable Themes フィールドは、RDP セッションでのテーマの使用をイネーブルします。

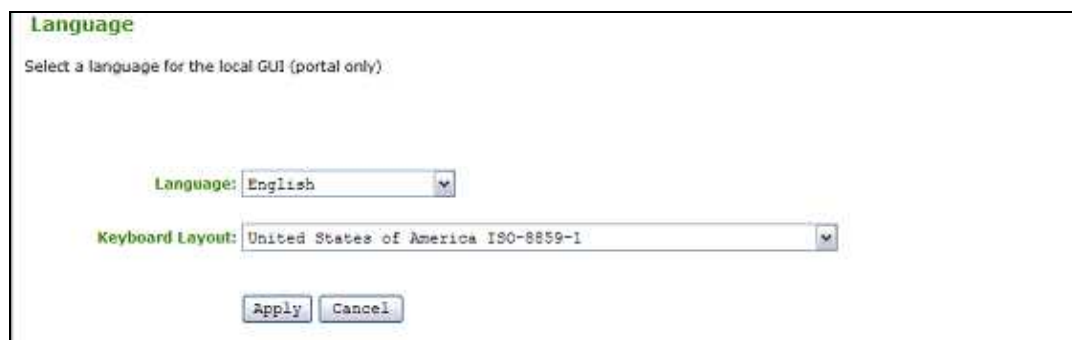
1.6.8 Language

Language ウェブページにより管理者は、ユーザインターフェースの言語を変更する事が出来ます。これは、ローカル OSD GUI に影響する点に注意してください。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

注意：ポータル言語パラメータはポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.3.8 Language を参照してください。

図 1-16: Language 設定ウェブページ



The screenshot shows a web form titled "Language". The instruction reads "Select a language for the local GUI (portal only)". There are two dropdown menus: "Language" is set to "English" and "Keyboard Layout" is set to "United States of America ISO-8859-1". At the bottom of the form are "Apply" and "Cancel" buttons.

1.6.8.1 Language

Language フィールドにより管理者は、OSD の言語を設定する事が出来ます。

サポートする言語については、セクション 5 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポートを参照してください。

1.6.8.2 Keyboard Layout

Keyboard Layout フィールドにより管理者は、キーボードレイアウトを変更する事が出来ます。

サポートするキーボードレイアウトについては、セクション 5 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポートの表 5-2 を参照してください。

1.6.9 OSD

OSD ウェブページにより管理者は、オンスクリーンディスプレイ(OSD)パラメータを変更する事が出来ます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

注意：ポータル OSD パラメータは、ポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.3.9 OSD を参照してください。

図 1-17: OSD 設定ウェブページ



On Screen Display

Change the settings of the On Screen Display (portal only)

Screen-Saver Message: Screen Saver Text

Screen-Saver Timeout: 300 Seconds (0 = disabled)

Apply Cancel

1.6.9.1 Screen-Saver Message

Screen-Saver Message フィールドにより管理者は、OSD スクリーンセーバテキストを変更する事が出来ます。240 文字までのテキストが利用できます。

スクリーンセーバは、黒のスクリーンに文字がランダムに動き回る簡単なものです。

1.6.9.2 Screen-Saver Timeout

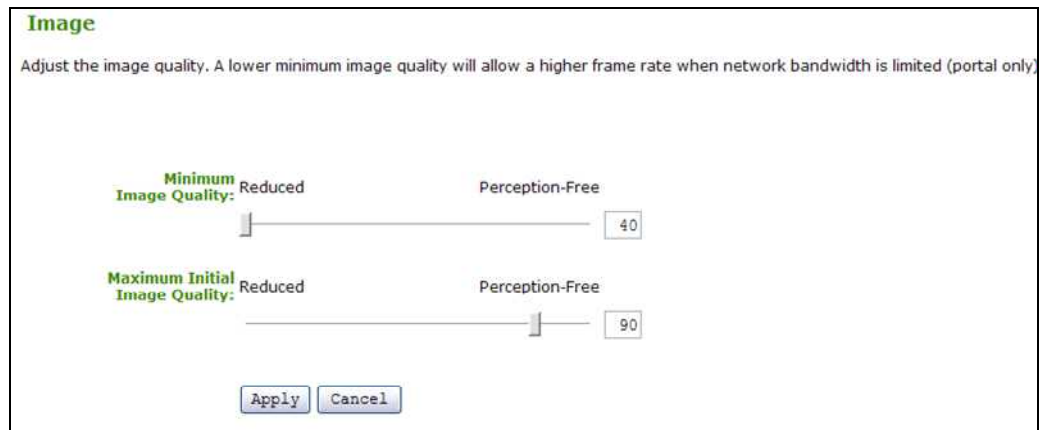
Screen-Saver Timeout フィールドにより管理者は、スクリーンセーバタイムアウトを設定する事が出来ます。タイムアウトは、秒単位で 9999 秒まで設定できます。0 をセットすると、スクリーンセーバをディセーブルします。

1.6.10 Image

Image ウェブページにより管理者は、PCoIP セッションのイメージ (グラフィック) クオリティを調整する事が出来ます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

図 1-18: Image 設定ウェブページ



1.6.10.1 Minimum Image Quality

Minimum Image Quality スライダーにより管理者は、ネットワークバンド幅が限られている場合に、イメージオリティとフレームレートの間で妥協点を見出します。実使用例によっては、高いフレームレートで低いイメージオリティを必要とするケースがありますし、他のケースでは低いフレームレートで高いイメージオリティが好まれる場合があります。

ネットワークバンド幅が制約された環境では、スライダーを *Reduced* に向かい動かすと高いフレームレートへ、スライダーを *Perception-Free* に向かい動かせば高いイメージオリティとなります。ネットワークバンド幅に制約が無い環境では、PCoIP システムは *Minimum Image Quality* の設定にかかわらず視覚的に影響の無いクオリティを保ちます。

注意： *Minimum Image Quality* は、*Maximum Initial Image Quality* 以下または等しくなければなりません。

注意： *Minimum Image Quality* は、ポータル OSD を使い設定することも出来ます。セクション 2.6.3 *Image* を参照してください。

Minimum Image Quality の設定例については、セクション 4.3 *バンド幅とイメージ設定例* を参照してください。

1.6.10.2 Maximum Initial Image Quality

Maximum Initial Image Quality スライダーにより、スクリーン内容の変化に伴うネットワークバンド幅ピークを削減することが出来ます。この設定は、スクリーン変化の最初のビデオフレームの初期クオリティを制限します。イメージ中の変化しない領域は、この設定にかかわらず損失無しの状態で作られます。

注意： *Maximum Initial Image Quality* は、*Minimum Image Quality* 以上または等しくなければなりません。

注意： *Maximum Initial Image Quality* は管理者専用のパラメータなので、ポータル OSD 上に対応するパラメータがありません。

1.6.11 Monitor Emulation

Monitor Emulation ウェブページは、モニタエミュレーション機能をイネーブル及びディセーブルします。

このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

図 1-19: Monitor Emulation 設定ウェブページ

Monitor Emulation

With monitor emulation disabled, the host will only respond to display data channel queries when in a session. With monitor emulation enabled, the host will **always** respond to display data channel queries. This feature is applicable on the host only.

Enable Monitor Emulation on DVI 1:

Enable Monitor Emulation on DVI 2:

Apply Cancel

1.6.11.1 Enable Monitor Emulation

Enable Monitor Emulation がディセーブルされている場合、PCoIP セッションではホストはディスプレイデータチャンネル(DDC)に限り応答します。*Enable Monitor Emulation* がイネーブルの場合、PCoIP セッションにあるか否かにかかわらずホストは、DDC 問い合わせ用のエミュレートされたデータを使います。

モニタポート、DV1 及び DV2 用に、独立した *Enable Monitor Emulation* フィールドが利用可能です。

1.6.12 Time

Time ウェブページは、ネットワークタイムプロトコル(NTP)設定を構成する事で、ポータル及びホストのイベントログ(セクション 1.8.1 Event Log 参照)に NTP 時間を基準とするタイムスタンプを含むように設定出来ます。

図 1-20: Time 設定ウェブページ



1.6.12.1 Current Time

Current time フィールドは、NTP を基準とした時間を表示します。

1.6.12.2 Enable NTP

Enable NTP フィールドにより管理者は、NTP 機能をイネーブル及びディセーブルする事が出来ます。

1.6.12.3 Identify NTP Host By

Identify NTP Host by セレクタにより管理者は、NTP ホストが IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN) により識別されるかを選択します。NTP がディセーブルされていると、このフィールドは必要が無いので、編集するは出来ません。

表 1-8 は、どちらかの方法が選ばれた時に利用可能な設定パラメータを表示します。無効な IP アドレスまたは DNS ネームが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

表 1-8: NTP ホスト方法

方法	データフィールド
IP アドレス	NTP ホスト IP アドレス
FQDN	NTP ホスト DNS ネーム

1.6.12.4 NTP Host Port

NTP Host Port フィールドは NTP ポート番号を設定します。

1.6.12.5 NTP Query Interval

NTP Query Interval フィールドにより管理者は、問い合わせの間隔を設定する事が出来ます。最初のフィールドは間隔周期を、2 番目のフィールドは時間の単位を *Minute(s)*、*Hour(s)*、*Day(s)* そして *Week(s)* で示します。

1.6.12.6 Time Zone

Time Zone フィールドは、ローカルタイムゾーンを設定します。

1.6.12.7 Enable Daylight Savings Time

Enable Daylight Savings Time フィールドにより管理者は、夏時間(daylight savings time)の自動調整をイネーブル及びディセーブルする事が出来ます。

1.6.13 Password

Password ウェブページにより管理者は、デバイスのためのローカル管理用パスワードを更新する事が出来ます。これはウェブインターフェース及びローカル GUI に影響することに注意してください。

パスワードは、最大 20 文字までです。

注意：パスワードを紛失するとポータルが使用不可能になるので、ポータルパスワードを更新する際は十分に注意してください。

注意：ポータルパスワードは、ポータル OSD を使い更新する事も出来ます。セクション 2.7 *Password* を参照してください。

図 1-21: Password 設定ウェブページ



The screenshot shows a web form titled "Password" with the instruction "Change the local administrator password". The form contains three text input fields labeled "Old Password:", "New Password:", and "Confirm New Password:". Below the input fields are two buttons: "Apply" and "Cancel".

1.6.13.1 Old Password

パスワードを更新するには、*Old Password* フィールドは、現在の管理用パスワードと一致しなければなりません。

1.6.13.2 New Password

New Password フィールドは、ウェブインターフェース及びローカル OSD GUI の両方に適用する新たな管理用パスワードです。

注意：ホスト及びポータルのパスワードは、個別に変更されます。

1.6.13.3 Confirm New Password

パスワードを更新するには、*Confirm New Password* フィールドは、*New Password* フィールドと一致しなければなりません。

1.6.14 Reset Parameters

Reset ウェブページにより管理者は、フラッシュに保存された全ての設定パラメータをリセットする事が出来ます。

注意：ポータルリセットパラメータは、ポータル OSD を使い行うことも出来ます。セクション 2.3.10 *Reset* を参照してください。

図 1-22: Reset パラメータウェブページ



1.6.14.1 Reset Parameters

Reset Parameters ボタンは、全ての設定及び承認を工場出荷時の状態にリセットします。このボタンを選ぶと、不注意によるリセットを避けるためにウェブインターフェースは管理者に確認を促します。

1.7 Permissions メニュー

Permissions メニューは、ユーザに提供する機能の範囲を定義するページへのリンクを含みます。Permissions メニューにあるウェブページは：

- USB
- Audio
- Power

図 1-23: Permissions メニューナビゲーション



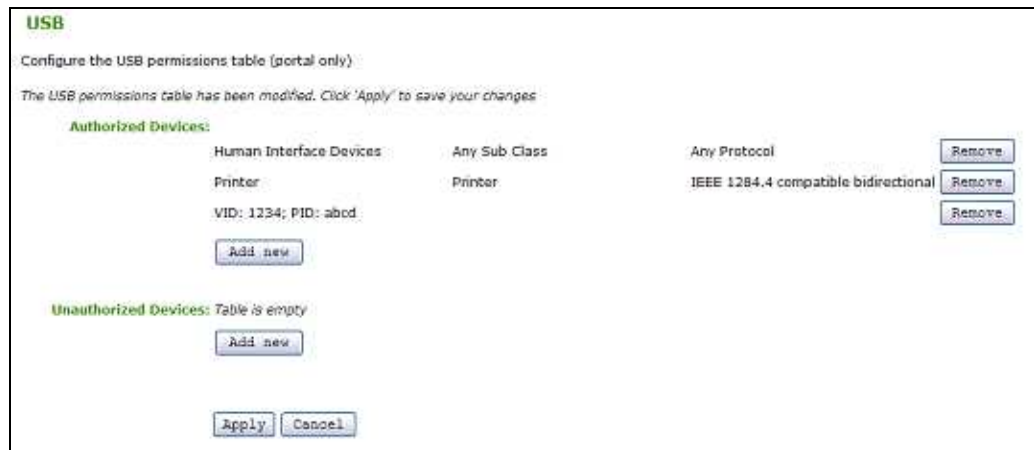
1.7.1 USB

USB ウェブページにより管理者は、承認される及び承認されない USB デバイスを指定する事が出来ます。USB ウェブページは、Authorized Devices (ホワイトリスト) 及び Unauthorized Devices (ブラックリスト) の 2 つのセクションに分かれています。エントリは ID またはクラスにより、承認または非承認デバイス (またはデバイスのグループ) を定義します。ワイルドカードを使うことで (または「any」を指定して)、承認される又は承認されない全デバイスの定義に必要なエントリ数を減らす事が出来ます。USB

設定の詳細については、付録 A: 使用例のセクション 4.4 USB 承認の例を参照してください。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

図 1-24: USB 承認ウェブページ



1.7.1.1 Authorized Devices

Authorized Devices セクションにより管理者は、ポータルにたいして承認される USB デバイスを指定する事が出来ます。2つのボタンにより「ホワイトリスト」のカスタマイズができます。*Add new* ボタンにより新たなデバイスまたはデバイスグループをリストに追加できます。また *Remove* ボタンにより、デバイスまたはデバイスグループを削除する事が出来ます。

Add new ボタンを選択する事で、*ID* または *Class* による USB の承認ができます。*ID* が選ばれると、このエントリは *Vendor ID* 及び *Product ID* により USB デバイスの承認を行います。*Class* が選ばれると、*Device Class*、*Sub Class* 及び *Protocol* により USB デバイスを承認します。

注意：USB 承認は、次の優先順位で適用されます。

1. 非承認 Vendor ID/Product ID (最高優先度)
2. 承認 Vendor ID/Product ID
3. 非承認 Device Class/Sub Class/Protocol
4. 承認 Device Class/Sub Class/Protocol (最低優先度)

表 1-9 は USB 承認エントリタイプ及び関連データフィールドを要約したものです。

表 1-9: USB デバイス承認エントリタイプ

エントリタイプ	必要なフィールド	16進による値	コメント
ID	VID	0-FFFF	
	PID	0-FFFF	

Class	Device Class	0-FF; アスタリスク「*」は全てのデバイスクラスを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のデバイスクラスを、人が認識できるように変換します。
	Sub Class	0-FF; アスタリスク「*」は全てのデバイスサブクラスを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のデバイスサブクラスを、人が認識できるように変換します。
	Protocol	0-FF; アスタリスク「*」は全ての承認されたプロトコルを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のプロトコルを、人が認識できるように変換します。

1.7.1.2 Unauthorized Devices

Unauthorized Devices セクションにより管理者は、ポータルにたいして承認されない USB デバイスを指定する事が出来ます。2つのボタンにより「ブラックリスト」のカスタマイズができます。Add new ボタンにより新たなデバイスまたはデバイスグループをリストに追加できます。また Remove ボタンにより、デバイスまたはデバイスグループを削除する事が出来ます。

Add new ボタンを選択する事で、ID または Class により USB を非承認する事が出来ます。ID が選ばれると、このエントリは Vendor ID 及び Product ID により USB デバイスの非承認を行います。Class が選ばれると、Device Class、Sub Class 及び Protocol により USB デバイスを非承認します。

注意：USB 非承認は、次の優先順位で適用されます。

1. 非承認 Vendor ID/Product ID (最高優先度)
2. 承認 Vendor ID/Product ID
3. 非承認 Device Class/Sub Class/Protocol
4. 承認 Device Class/Sub Class/Protocol (最低優先度)

表 1-9 は、USB 非承認エントリタイプ及び関連データフィールドを要約したものです。

表 1-10: USB デバイス非承認エントリタイプ

エントリタイプ	必要なフィールド	16進による値	コメント
ID	VID	0-FFFF	
	PID	0-FFFF	
Class	Device Class	0-FF; アスタリスク「*」は全てのデバイスクラスを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のデバイスクラスを、人が認識できるように変換します。

Sub Class	0-FF; アスタリスク「*」は全てのデバイスサブクラスを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のデバイスサブクラスを、人が認識できるように変換します。
Protocol	0-FF; アスタリスク「*」は全ての承認されたプロトコルを意味します。	ドロップダウンメニューは、既知のプロトコルを、人が認識できるように変換します。

1.7.2 Audio

Audio ウェブページにより管理者は、デバイスのオーディオ承認の設定をする事が出来ます。

図 1-25: Audio 承認ウェブページ



Audio
Enable or disable high definition audio

Enable HD Audio: Note: To enable audio, please ensure that audio is also enabled on the Portal.

Enable Audio Compression:

Enable Microsoft Windows Vista 64-bit Mode: Important: If using Microsoft Windows Vista 64-bit Edition, this feature must be enabled for audio to function correctly.

Apply Cancel

1.7.2.1 Enable HD Audio

Enable HD Audio オプションは、ホストとポータルのオーディオをイネーブル及びディセーブルします。オーディオを機能させるには、ホストとポータルの両方でイネーブルでなければなりません。

Enable HD Audio オプションがホストでディセーブルされていると、OS がエミュレートするためのオーディオハードウェアが利用できません。

1.7.2.2 Enable Audio Compression

Enable Audio Compression オプションは、オーディオで使われるバンド幅を削減するためにオーディオ圧縮をイネーブル及びディセーブルします。

1.7.2.3 Enable Microsoft® Windows Vista® 64-bit Mode

Enable Microsoft Windows Vista 64-bit Mode オプションは、4GB 以上の RAM を搭載する 64 ビットオペレーティングシステムで、オーディオをイネーブルしたときのメモリ破壊を避けるための Vista64 用の回避策をイネーブルします。

このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

注意：このモードは Windows XP64 または 32 ビットオペレーティングシステムでは使われません。

注意：Linux カーネルは最新の Teradici オーディオコーデックでコンパイルされているので、64 ビットモードを Linux64 ビットオペレーティングシステム用にイネーブルする必要はありません。

1.7.3 Power

Power ウェブページにより管理者は、ポータルのパワーオフ許可を設定する事が出来ます。

図 1-26: Power 承認ウェブページ



1.7.3.1 Portal Power Button

Portal Power Button プルダウンメニューにより、ポータルのパワーボタン機能を設定します。Portal Power Button のオプションは：

- Power-off not permitted
- Soft Power-off only
- Hard Power-off only
- Soft and Hard Power-off

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.8 Diagnostics メニュー

Diagnostics メニューは、トラブルシューティングに役立つランタイム情報及び機能を含みます。Diagnostics メニューにあるウェブページは：

- Event Log
- Session Control
- Session Statistics
- Host CPU
- Audio
- Display
- PCoIP Processor

図 1-27: Diagnostics メニューナビゲーション



1.8.1 Event Log

Event Log ウェブページにより管理者は、ポータルまたはホストからのイベントログメッセージを表示及びクリアする事が出来ます。

注意：ポータルイベントログはポータルOSD を使い表示する事も出来ます。セクション 2.4.1 Event Log を参照してください。

図 1-28: Event Log ウェブページ



1.8.1.1 Event log message

Event log messages フィールドにより管理者は、メッセージを表示及びクリアする事が出来ます。

View

View ボタンを選択すると、デバイスに保存された全てのイベントログメッセージ（タイムスタンプ情報を含む）で新たなブラウザウィンドウを開きます。

Clear

Clear ボタンを選択すると、保存された全てのイベントログメッセージを消去します。

1.8.1.2 Event log filter mode

Event log filter mode プルダウンメニューによりイベントログをフィルタする事が出来ます。選択可能なオプションは：

- Verbose（詳細）
- Terse（簡単）

1.8.2 Session Control

Session Control ウェブページにより、デバイスセッションの制御が可能です。

図 1-29: Session Control ウェブページ



1.8.2.1 Connection State

Connection State フィールドは、セッションの現在の状態を報告します。選択可能なオプションは：

- Disconnected
- Connection Pending
- Connected

Connection State フィールドの下に、Connect 及び Disconnect の 2 つのボタンがあります。

Connect

Connection State が Disconnected の場合にこのボタンを選ぶと、ポータルがその相手側デバイスで PCoIP セッションを開始します。Connection State が Connection Pending または Connected の場合、このボタンはディセーブルされます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

Disconnect

Connection State が Connected または Connection Pending の場合にこのボタンを選ぶと、デバイスの PCoIP セッションを終了します。Connection State が Disconnected の場合、このボタンはディセーブルされます。

1.8.2.2 Peer IP/MAC Address

Peer IP Address

Peer IP Address は、相手側デバイスの IP アドレスです。セッション中でない場合、このフィールドは空白です。

Peer MAC Address

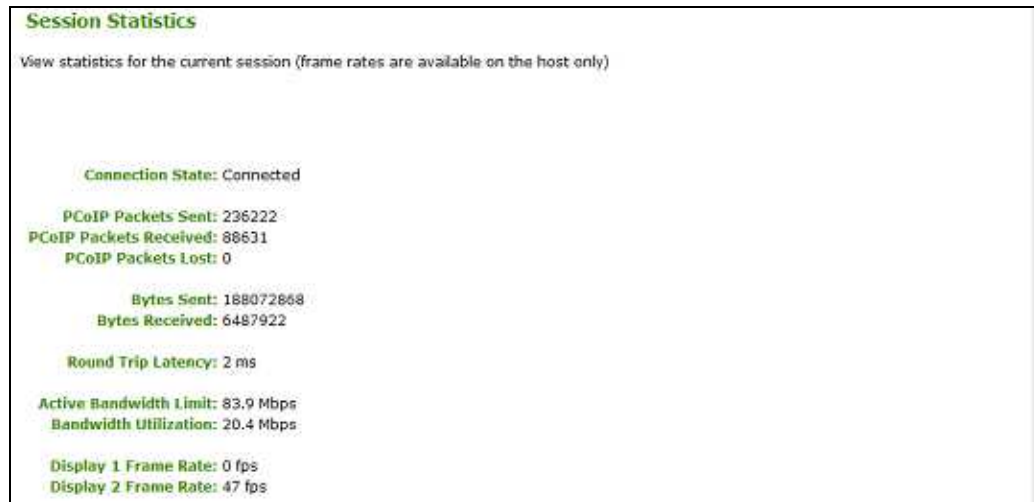
Peer MAC Address は、現在セッション中の相手側 MAC アドレスです。セッション中でない場合、このフィールドは空白です。

1.8.3 Session Statistics

Session Statistics ウェブページにより管理者は、PCoIP に特化した統計を見る事が出来ます。

注意： *Session Statistics* のサブセットは、ポータル OSD を使い見ることも出来ます。
セクション 2.4.2 *Session Statistics* を参照してください。

図 1-30: *Session Statistics* ウェブページ



1.8.3.1 Connection State

Connection State フィールドは、PCoIP セッションの現在の状態を表示します。
Connection State 値は：

- Asleep
- Cancelling
- Connected
- Connection Pending
- Disconnected
- Waking

1.8.3.2 PCoIP Packets Statistics

PCoIP Packets Sent

PCoIP Packets Sent は、現在のセッションにおける送信された PCoIP パケットの総数を表示します。

PCoIP Packets Received

PCoIP Packets Received は、現在のセッションにおける受信された PCoIP パケットの総数を表示します。

PCoIP Packets Lost

PCoIP Packets Lost は、現在のセッションにおける損失された PCoIP パケットの総数を表示します。

1.8.3.3 Bytes Statistics

Bytes Sent

Bytes Sent は、現在のセッションにおいて送信された総バイト数を表示します。

Bytes Received

Bytes Received は、現在のセッションにおいて受信された総バイト数を表示します。

1.8.3.4 Round Trip Latency

Round Trip Latency フィールドは、PCoIP システムの総ラウンドトリップ（例えばホストからポータル、そしてホストへ戻る）及びネットワーク遅延をミリ秒単位(+/- 1 ms)で表示します。

1.8.3.5 Bandwidth Statistics

Active Bandwidth Limit

Active Bandwidth Limit は、Tera1x00 プロセッサが現在生成するネットワークトラフィックの最大量を表示します。この値は、設定されたバンド幅(セクション 1.6.6 Bandwidth 参照)及び現在のネットワークの混雑レベルから派生したものです。

Bandwidth Utilization

Bandwidth Utilization は、特定の時間に Tera1x00 プロセッサにより生成されるトラフィックの平均値を表示します。

1.8.3.6 Display Frame Rate

Display 1 Frame Rate

Display 1 Frame Rate は、Display 1 のフレームレートを表示します。単位は、1 秒当たりのフレーム数(fps)です。

Display 2 Frame Rate

Display 2 Frame Rate は、Display 2 のフレームレートを表示します。単位は、1 秒当たりのフレーム数(fps)です。

このオプションはホスト上でのみ利用可能で、ポータル上で表示される 1 秒当たりのフレーム数は 0 fps です。

1.8.4 Host CPU

Host CPU ウェブページにより管理者は、ホスト情報及び状態を表示及び変更することが出来ます。

このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

図 1-31: Host CPU ウェブページ



1.8.4.1 Host Identity

Host Identity フィールドは、ホストコンピュータ認識文字列を表示します。(データが利用可能な場合)

1.8.4.2 Current Power State

Current Power State フィールドは、ホスト電源の現在の状態を表示します。

1.8.4.3 Change Power State

Change Power State プルダウンメニューにより管理者は、ホスト電源の状態を変更する事が出来ます。設定可能なオプションは：

- S5 (Soft Off)
- S5 (Hard Off)

注意：この機能と互換性のあるホストハードウェアが必要です。

このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

1.8.4.4 Reset host CPU

Reset Host CPU ボタンにより、ホスト CPU をリセットする事が出来ます。

注意：リモートリセットをサポートするホストハードウェアが必要です。

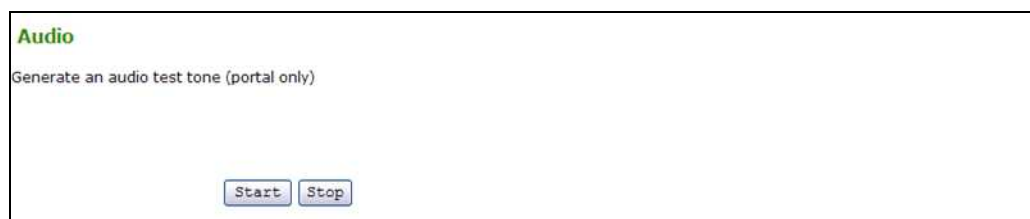
このオプションはホストでのみ利用可能です。ポータルでは、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

1.8.5 Audio

Audio ウェブページにより管理者は、ポータルからのオーディオテストトーンを生成する事が出来ます。

このオプションはポータルが PCoIP セッション中ではない場合に限り利用できます。ホスト上では、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

Figure 1-32: Audio 診断ウェブページ



1.8.5.1 Generate an audio test tone (ポータルのみ)

2つのボタンが利用できます。*Start* ボタンはテストトーンを開始し、*Stop* ボタンは停止させます。

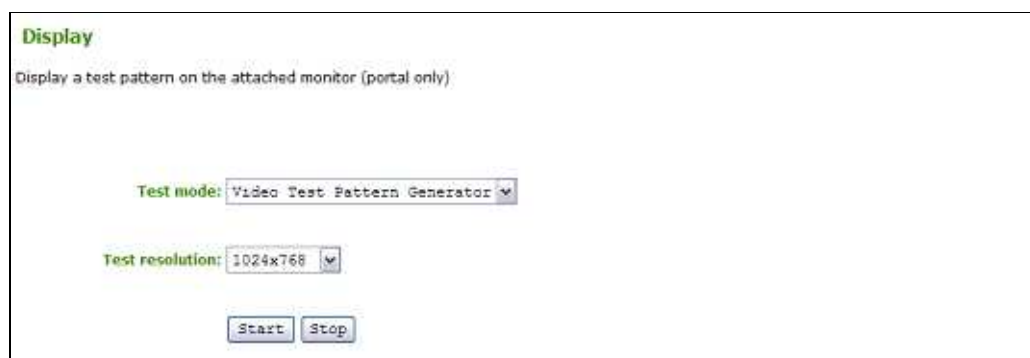
このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.8.6 Display

Display ウェブページにより管理者は、ポータルディスプレイ上でテストパターンを表示する事が出来ます。

このオプションはポータルがPCoIP セッション中ではない場合に限り利用できます。ホスト上では、この機能はディセーブルされており編集不可能です。

図 1-33: Display ウェブページ



1.8.6.1 Test mode

Test Mode プルダウンメニューにより管理者は、接続されたモニタ上のテストパターンをイネーブルする事が出来ます。テストパターンオプションは：

- Video Test Pattern Generator
- Pseudo Random Bitstream

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.8.6.2 Test resolution

Test resolution プルダウンメニューは、テストパターン解像度をセットします。設定可能なオプションは：

- 1024x768
- 1280x1024
- 1600x1200
- 1920x1200

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.8.6.3 Start/Stop

Start ボタンはテストパターンを開始し、*Stop* ボタンは停止させます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.8.7 PCoIP Processor

Reset PCoIP Processor *Reset* ボタンにより管理者は、デバイスプロセッサをリセットする事が出来ます。

図 1-34: PCoIP Processor ウェブページ



1.8.7.1 Current Time

Current Time フィールドは現在の時刻を表示します。この機能は、NTP をイネーブルにし、セクション 1.6.12 Time の記述に従って設定する必要があります。

1.8.7.2 Time Since Boot

Time Since Boot フィールドによりユーザは、ポータル PCoIP プロセッサが最後に起動してからの経過時間を見る事が出来ます。

注意：ポータル経過時間は、ポータル OSD を使って見ることも可能です。セクション 2.4.3 PCoIP Processor を参照してください。

1.8.7.3 Reset PCoIP Processor

Reset PCoIP Processor ボタンにより管理者は、PCoIP ポータルまたはホストをリセットする事が出来ます。

1.9 Info メニュー

Info メニューは、デバイスに関する情報を表示するページへのリンクを持ちます。Info メニューにあるウェブページは：

- Version
- Attached Devices

図 1-35: Info メニューナビゲーション

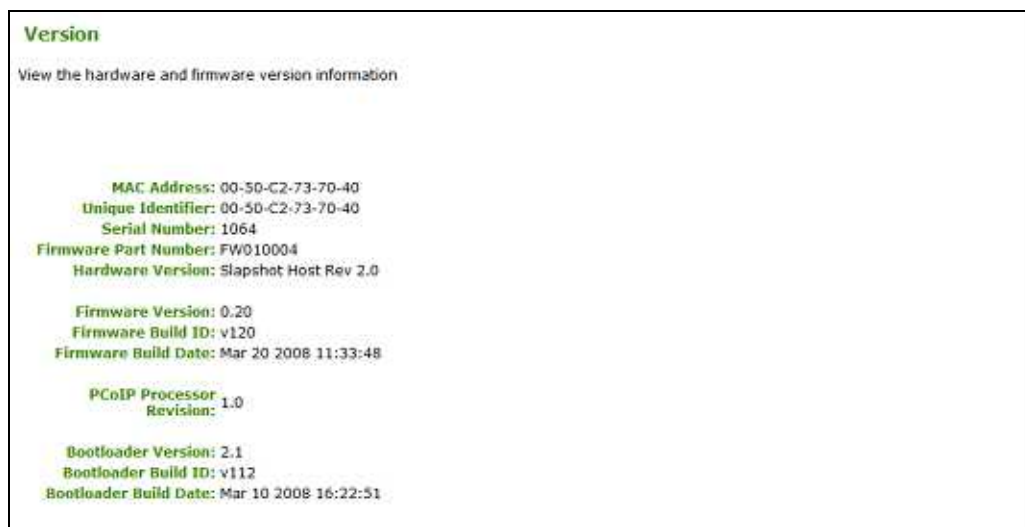


1.9.1 Version

Version ウェブページにより管理者は、ハードウェア及びファームウェア情報を見る事が出来ます。

注意：ポータルバージョン情報はポータル OSD を使って見る事も出来ます。セクション 2.5 Information を参照してください。

図 1-36: Version ウェブページ



1.9.1.1 VPD 情報

Vital Product Data (VPD)は、それぞれのポータルまたはホストを固有に識別するために工場 で用意されます。

注意：VPD 情報は、ポータル OSD を使い見る事も出来ます。セクション 2.5.1.1 VPD 情報を参照してください。

表 1-11: VPD 情報

MAC Address	ポータル/ホストの固有 MAC アドレス
Unique Identifier	ポータル/ホストの固有識別子
Serial Number	ポータル/ホストの固有シリアル番号
Firmware Part Number	現在の PCoIP ファームウェアのパートナンバ
Hardware Version	ポータル/ホストハードウェアバージョンナンバ

1.9.1.2 ファームウェア情報

ファームウェア情報は、現在の PCoIP ファームウェアの詳細を表します。

注意：ファームウェア情報は、ポータル OSD を使って見る事も出来ます。セクション 2.5.1.2 を参照してください。

表 1-12: ファームウェア情報

Firmware Version	現在の PCoIP ファームウェアのバージョン
Firmware Build ID	現在の PCoIP ファームウェアのリビジョンコード
Firmware Build Date	現在の PCoIP ファームウェアのビルド日付

1.9.1.3 PCoIP プロセッサリビジョン

PCoIP Processor Revision コードは、PCoIP プロセッサのシリコンのリビジョンです。シリコンのリビジョン B は 1.0 で表されます。

注意：PCoIP プロセッサリビジョンは、ポータル OSD を使って見る事も出来ます。セクション 2.5.1.3 PCoIP プロセッサリビジョンを参照してください。

1.9.1.4 ブートローダ情報

ブートローダ情報は、現在の PCoIP ブートローダの詳細を表しています。

表 1-13: ブートローダ情報

Bootloader Version	現在の PCoIP ブートローダのバージョン
Bootloader Build ID	現在の PCoIP ブートローダのリビジョンコード
Bootloader Build Date	現在の PCoIP ブートローダのビルド日付

1.9.2 Attached Devices

Attached Devices ウェブページは、ポータルに接続中のモニタ及び USB ハードウェアのタイプ及び状態を表示します。

図 1-37: Attached Devices ウェブページ

Attached Devices							
View presently connected monitors and USB devices (portal only)							
Monitors:							
Name	Serial	VID	PID	Date	Status		
SyncMaster VX922	HCGP803905 PXU063334384	SAM V5C	286 AD1C	47-2007 33-2006	Connected Connected		
USB Devices:							
Name	Serial	VID	PID	Device Class	Sub Class	Protocol	Status
USB Multimedia Keyboard	-	046D	C313	00	00	00	Connected
USB Optical Mouse	-	046D	C018	00	00	00	Connected
-	-	0000	0000	00	00	00	Not Connected
iPod	000A270015C4001D5AC	1209	08	06	06	50	Failed Authorization

1.9.2.1 Monitors

Monitors セクションは、Name、Serial Number、Vendor Identification (VID)、Product Identification (PID)、Date そして各ポートに接続されたモニタの Status を報告します。最初のラインはモニタ 1 の情報を、2 番目のラインはモニタ 2 の情報をそれぞれ提供します。

このオプションはポータルでのみ利用可能で、PCoIP セッション中のホストでも利用可能です。

1.9.2.2 USB Devices

USB Devices セクションは、Name、Serial Number、Vendor Identification (VID)、Product Identification (PID)、Device Class、Sub Class、Protocol そして各ポートに接続された USB デバイスの Status を報告します。最初のラインは最初の USB ポートを、2 番目のラインは 2 番目のポートその他の情報を提供します。

表 1-14 は、USB Devices 用の考えられる Status デスクリプタを要約したものです。

表 1-14: USB デバイスステータス

ステータス	説明
Not Connected	デバイスは接続されていません。
Standalone	デバイスが PCoIP セッション外で検出されました。
Not Initialized	デバイスが PCoIP セッション内で検出されました。しかし、ホストコントローラはデバイスを初期化していません。
Failed Authorized	PCoIP セッション内でデバイスを検出しましたが、承認されていません。(セクション 1.7.1 参照)
Locally Connected	デバイスが検出され承認されました、しかし PCoIP セッション内でローカルに中断されました。(例えばローカルカーソル)
Connected	デバイスが検出され、PCoIP セッションで承認されました。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

1.10 Upload メニュー

Upload メニューには、デバイスへファイルをアップロードするために使うページへのリンクがあります。Upload メニューにあるウェブページは：

- Firmware
- OSD Logo

図 1-38: Upload メニューナビゲーション



1.10.1 Firmware

Firmware ウェブページにより管理者は、ポータルまたはホストへ新たなファームウェアのビルドをアップロードする事が出来ます。

図 1-39: Firmware Upload ウェブページ



1.10.1.1 Firmware build filename

Firmware build filename フィールドは、アップロードされるファームウェアイメージのファイル名を指定します。管理者は Browse ボタンで、ファイルへブラウズする事が出来ます。ファイルはウェブブラウザからアクセス可能でなければなりません。（つまりローカルあるいはネットワークドライブ）ファームウェアイメージは、「.all」ファイルでなければなりません。

1.10.1.2 Upload

Upload ボタンを選ぶことで、指定されたファイルがデバイスへ転送されます。ウェブインターフェースは不注意によるアップロードを避けるために、管理者に再確認を促します。

注意：ポータル及びホストが同じファームウェアリリースを持つ事を確認してください。

ファームウェアアップロードプロセスの例

1. ホスト PC またはワークステーションが、アイドル状態である事を確認してください。
(全てのアプリケーションをクローズしなければなりません)
2. ホスト管理用ウェブインターフェースへログインします。
3. ファームウェア「.all」ファイル(例えば「tera1x00_rel1-9_v175.all」)へブラウザするために、*Firmware Upload* ウェブページの *Browse* ボタンを選びます。
4. ファイルアップロードウィンドウの *Open* ボタンを選びます。
5. ウェブページ *Upload* ボタンを選びます。
6. 「Are you sure?」と表示された警告ウインドウ上のウェブページ *OK* ボタンを選びます。これにより新たなファームウェアイメージがアップロードされます。この処理には数分かかります。
7. ファームウェアアップロードの終了を待ちます。完了すると、次のメッセージが表示されます。「Success Flash successfully programmed! You must reset the device for the changes to take effect.」
8. リセットボタンを選びます。
9. 「The PCoIP processor will reset on the next host system restart; your changes will take effect then. Are you sure you want to proceed?」と表示された警告ウインドウ上の *OK* ボタンを選びます。
10. ポータル上でステップ 2 から 7 までを繰り返しますが、ポータルをリセットしないでください。
11. ホスト PC またはワークステーションをリスタートします。
12. ポータルをリセットします。
13. PCoIP セッションを開始します。

1.10.2 OSD Logo

OSD Logo ウェブページにより、イメージをデバイスへアップロードする事が出来ます。このイメージは、ローカル GUI オンスクリーンディスプレイ(OSD)ロゴの接続ウインドウ上に表示されます。

このオプションはポータルでのみ利用可能です。ホストではこの機能はディセーブルされており、編集不可能です。

図 1-40: OSD Logo Upload ウェブページ

OSD Logo Upload

Upload an OSD logo to be displayed on the local GUI (portal only)

The OSD logo must be a 24bpp bitmap that does not exceed 256 pixels by 64 pixels. Any other images will be displayed incorrectly, or not at all.

OSD logo filename:

1.10.2.1 OSD logo filename

OSD logo filename フィールドは、アップロードされるロゴイメージのファイル名を指定します。管理者は、*Browse* ボタンでファイルブラウザできます。ファイルはウェブブラウザからアクセス可能でなければなりません。（つまりローカルあるいはネットワークドライブ）

1 画素あたり 24 ビットのイメージは JPG または BMP でなければならず、その寸法は幅 256 ピクセル、高さ 64 ピクセルを超える事は出来ません。ファイル拡張子が誤っていると、ウェブインターフェースはエラーメッセージを表示します。

1.10.2.2 Upload

Upload ボタンを選ぶと、指定されたファイルがデバイスへアップロードされます。ウェブインターフェースは不注意によるアップロードを避けるために、管理者に再確認を促します。

OSD ロゴアップロードプロセスの例

1. ログファイルブラウザするためにウェブページ *Browse* ボタンを選びます。
2. ファイルアップロードウインドウの *Open* ボタンを選びます。
3. ウェブページ *Upload* ボタンを選びます。
4. *OK* ボタンを選びます。「Are you sure?」と表示された警告ウインドウ上のウェブページ *OK* ボタンを選びます。これによりローカル GUI 用の新たなロゴがアップロードされます。この処理には数分かかります。
5. OSD ロゴアップロードの終了を待ちます。完了すると、次のメッセージが表示されます。「Success Flash successfully programmed! You must reset the device for the changes to take effect.」
6. ポータルをリスタートします。

2 オンスクリーンディスプレイ(OSD)

オンスクリーンディスプレイ (OSD) ローカル GUI (ポータルのみ) は、デバイスに電源が入っていて PCoIP セッションが実行中でない場合にユーザに表示されます。OSD は Connect Screen を通じてホストデバイスへ接続するメカニズムを提供します。Connect Screen は、スタートアップ時にユーザに表示されます。

Connect Screen により、Options ウィンドウへのアクセスも出来ます。Options ウィンドウは、セクション 1 に記述された管理用ウェブインターフェースの機能のサブセットを提供します。Options ウィンドウは、Connect Screen 上の Options ボタンでアクセスする事が出来ます。ポータルオプションの変更には、管理者パスワードが必要です。

2.1 Connect Screen

Connect Screen は、ポータルが管理されたスタートアップまたはオートリコネクトに設定されている場合を除いてスタートアップ時に表示されます。

Connect ボタンの上に表示されるロゴは、管理用ウェブインターフェースにより置き換えイメージをアップロードすることで変更する事が出来ます。Connect Screen ロゴの更新についての情報は、1.10.2 を参照してください。

図 2-1: OSD Connect Screen



2.1.1 Connect Button

Connect ボタンを選択すると、セッション設定に応じて PCoIP または RDP セッションを開始します。PCoIP 接続がペンディングの間、OSD ローカル GUI は「Connection Pending」メッセージを表示します。接続が確立すると OSD ローカル GUI は消えて、セッションイメージで置き換えられます。

図 2-2: OSD Connect Screen (接続中)



2.2 OSD Options Menu

Options メニューを選ぶとセレクションのリストが表示されます。OSD *Options* メニューに含まれるのは：

- Configuration
- Diagnostics
- Information
- User Settings
- Password

これらの1つを選択すると、設定ウインドウが表示されます。

図 2-3: OSD Options メニュー



2.3 Configuration Window

Configuration ウィンドウにより管理者は、ポータルがどのように動作しその環境に作用するかを設定するウィンドウタブにアクセスできます。

Configuration ウィンドウのタブは：

- Network
- Connection Management
- Discovery
- Session
- Bandwidth
- RDP
- Language
- OSD
- Reset

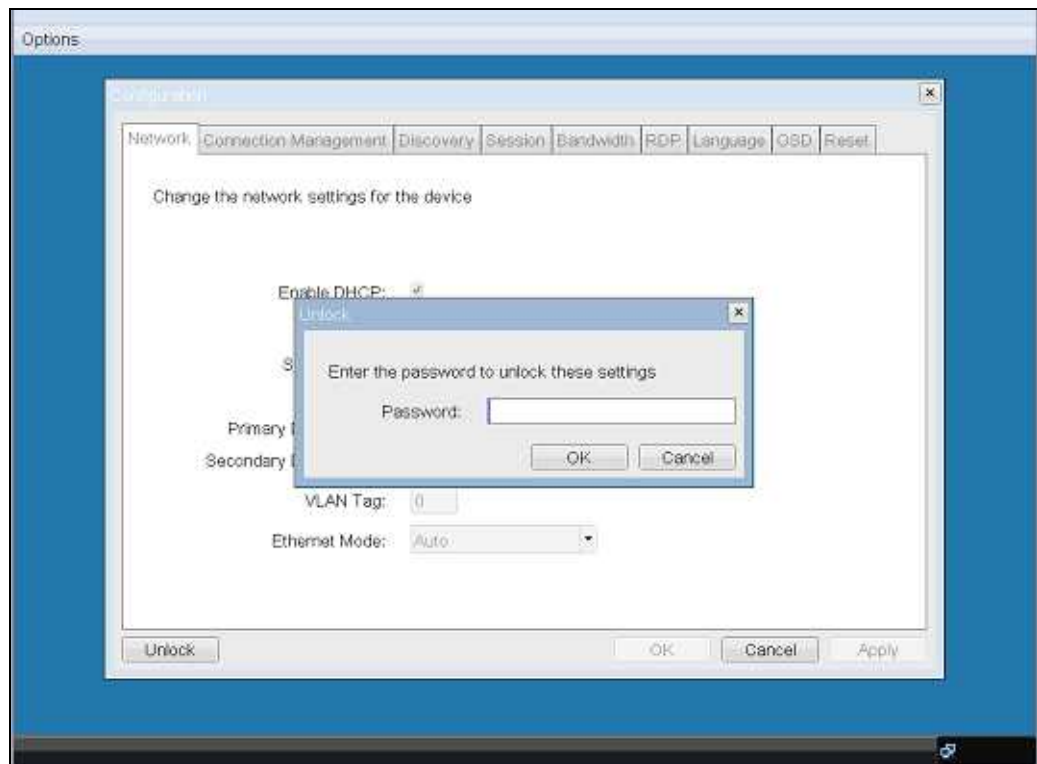
各タブには、タブ上で変更された設定を了承またはキャンセルする *OK*、*Cancel* 及び *Apply* ボタンがあります。

2.3.1 コンフィグレーション設定の解除

コンフィグレーションタブの全ての設定は、パスワードによりプロテクトされます。設定を解除するには：

1. *Configuration* ウィンドウの左下の *Unlock* ボタンを選びます。
2. パスワードを入力します。
3. *OK* ボタンを選びます。

図 2-4: 設定解除 OSD

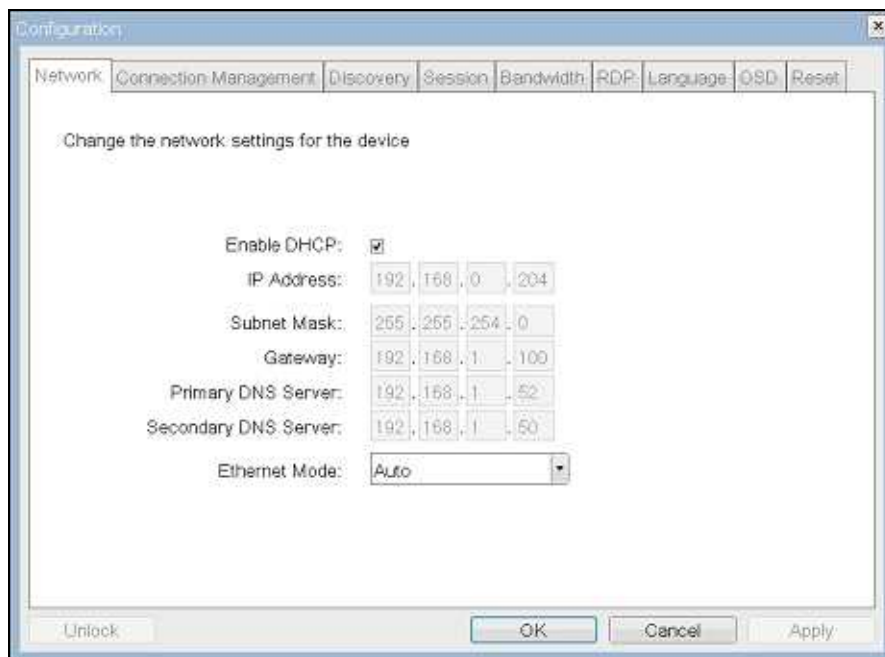


2.3.2 Network タブ

Network タブにより管理者は、ポータルネットワークパラメータを設定する事が出来ます。

注意：ネットワークパラメータは、ウェブページ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.2 *Network* を参照してください。

図 2-5: Network 設定



2.3.2.1 Enable DHCP

Enable DHCP がイネーブルされると、デバイスは IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ IP アドレスを割り当てるために DHCP サーバと DNS サーバへ接続します。ディセーブルされると、デバイスはこれらのパラメータが手動設定される事を必要とします。

2.3.2.2 IP Address

IP Address フィールドは、デバイスの IP アドレスです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合には、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

2.3.2.3 Subnet Mask

Subnet Mask フィールドは、デバイスのサブネットマスクです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合には、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは、有効なサブネットマスクでなければなりません。無効なサブネットマスクが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

2.3.2.4 Gateway

Gateway フィールドは、デバイスのゲートウェイ IP アドレスです。DHCP がディセーブルの場合、このフィールドが必要です。DHCP がイネーブルの場合には、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

2.3.2.5 Primary DNS Server

Primary DNS Server フィールドは、デバイスのプライマリ DNS IP アドレスです。このフィールドはオプションです。DHCP がイネーブルの場合には、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

2.3.2.6 Secondary DNS Server

Secondary DNS Server フィールドは、デバイスのセカンダリ DNS IP アドレスです。このフィールドはオプションです。DHCP がイネーブルの場合には、このフィールドは変更不可能です。このフィールドは、有効な IP アドレスでなければなりません。無効な IP アドレスが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

2.3.2.7 Ethernet Mode

Ethernet Mode フィールドは、ポータルイーサネットモードを設定します。設定可能なオプションは：

- Auto
- 10 Mbps Full-Duplex
- 100 Mbps Full-Duplex

注意：管理者は、**Ethernet Mode** を常に **Auto** に設定すべきです。そして、例えばスイッチ等の他のネットワーク機器が 10M Mbps Full-Duplex または 100M Mbps Full-Duplex で動作するように設定されている場合に限り、**10 Mbps Full-Duplex** または **100 Mbps Full-Duplex** を使います。

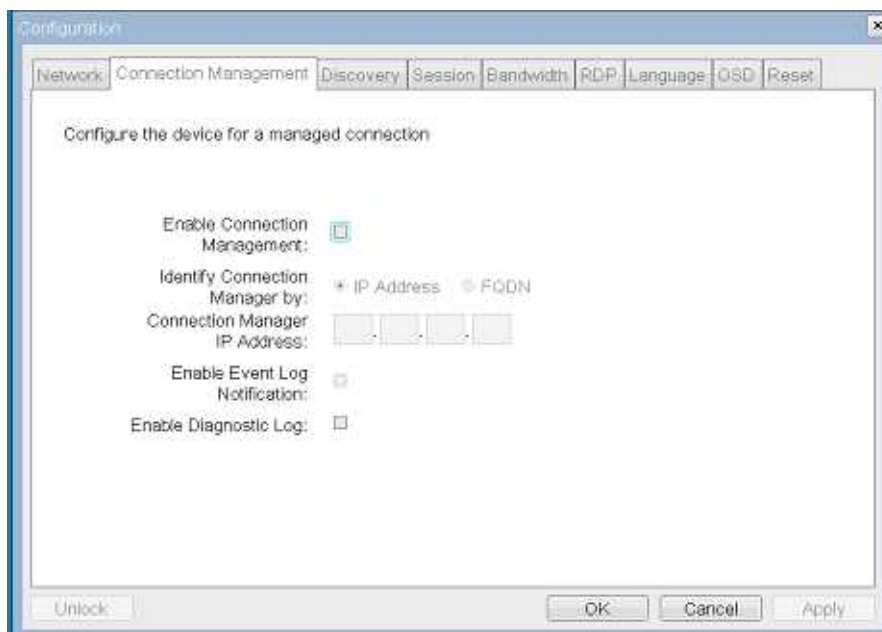
2.3.3 Connection Management タブ

Connection Management タブにより管理者は、コネクションマネージメントをイネーブル及びディセーブルし、コネクションマネージャの IP アドレスを指定します。

管理された接続下では、外部コネクションマネージャサーバはデバイスとの通信を行ったり、デバイスを遠隔操作し設定することが出来ます。さらにコネクションマネージャは、デバイスの接続に最適な相手を見つけ出し接続を開始する事が出来ます。コネクションマネージャは、大規模で複雑なシステムの管理を大幅に簡素化することが出来ます。

注意：コネクションマネージメントパラメータは、ウェブ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.3 Connection Management を参照してください。

図 2-6: Connection Management 設定



2.3.3.1 Enable Connection Management

Enable Connection Management オプションがイネーブルの場合、デバイスは外部コネクションマネージャにより設定及び制御する事が出来ます。

2.3.3.2 Identify Connection Manager By

Identify Connection Manager By セレクタにより管理者は、コネクションマネージャが IP アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN)により認識されるかを選択する事が出来ます。コネクションマネージャがディセーブルのときは、このフィールドは編集不可能なので必要ありません。

表 2-1 は、それぞれの方法が選択された時に利用可能な設定パラメータを表示しています。無効な IP アドレスや DNS ネームが入力されると、ウェブインターフェースは管理者に訂正を促します。

表 2-1: Connection Manager の方法

方法	データフィールド
IP アドレス	Connection Manager IP アドレス
FQDN	Connection Manager DNS ネーム

2.3.3.3 Enable Event Log Notification

Event Log Notification フィールドは、PCoIP ホスト及びポータルデバイスが、それらのイベントログの内容をコネクションマネージャサーバへ送るかどうかを制御します。

2.3.3.4 Enable Diagnostic Log

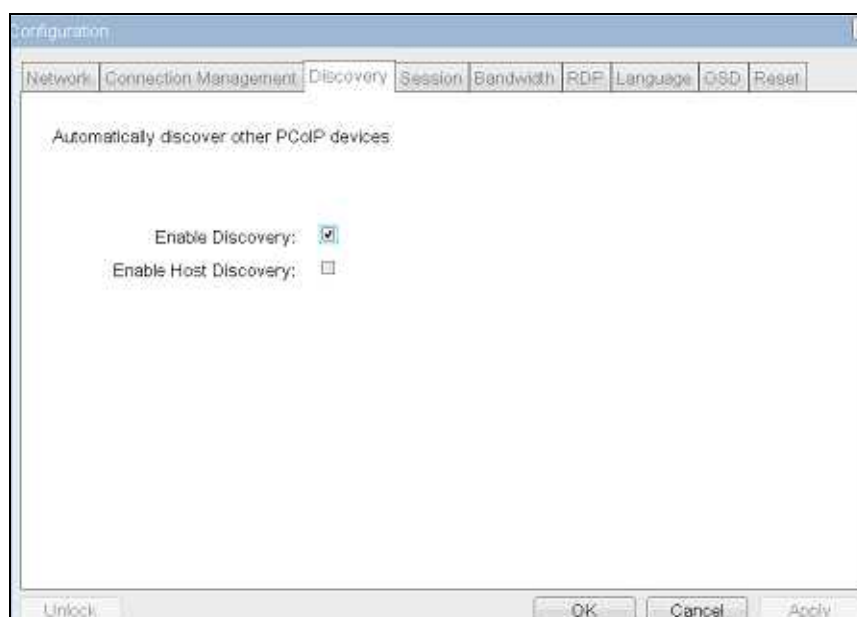
Enable Diagnostic Log フィールドは、PCoIP ホスト及びポータルデバイスのイベントログに特定のデバッグメッセージを書き込むかどうかを制御します。

2.3.4 Discovery タブ

Discovery configuration タブはにより、PCoIP システムにおけるポータルの検出を容易にする機能を使用する事が出来ます。

注意：Discovery パラメータは、ウェブ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.4 *Discovery* を参照してください。

図 2-7: Discovery 設定



2.3.4.1 Enable Discovery

Enable Discovery オプションがイネーブルされていると、ネットワークにおけるそれらの位置情報を事前に知らずとも、デバイスは動的に相手デバイス及びマネージメント機器を検出することが出来ます。これにより、複雑なシステムのメンテナンス及び設定の手間を大幅に削減する事ができます。

2.3.4.2 Enable Host Discovery

Enable Host Discovery 機能によりポータルは、PCoIP セッションにないホストを検出する事が出来ます。

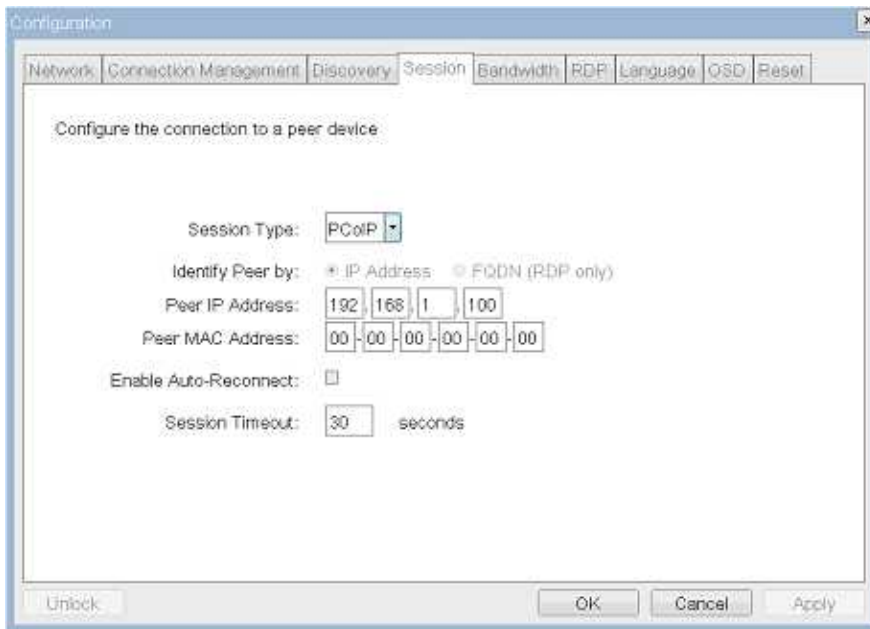
イネーブルされている場合、ポータルは 10 までの利用可能ホストを検出された順に表示する事が出来ます。*Enable Host Discovery* 機能は、少数ホストと共に使われることが考えられます。

2.3.5 Session タブ

Session タブにより管理者は、デバイスがどのように相手デバイスと接続するか設定する事が出来ます。

注意：Session パラメータは、ウェブページ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.5 Session を参照してください。

図 2-8: Session 設定



2.3.5.1 Session Type

Session Type により管理者は、ポータルを PCoIP セッションまたは RDP セッション用に設定する事が出来ます。

ポータル RDP クライアント上の情報については、セクション 6 付録 C: ポータル RDP 互換性を参照してください。

2.3.5.2 Identify Peer By

Identify Peer By セレクタにより管理者は、相手側デバイスが IP 及び MAC アドレスまたは Fully Qualified Domain Name (FQDN) により識別されるかを選ぶ事が出来ます。Accept Any Peer がイネーブルの場合、これらのフィールドは必要がなく編集不可能です。

表 2-2 は、それぞれの方法において利用可能な Peer 識別子を表示しています。無効な IP アドレスまたは DNS ネームが入力されると、OSD は管理者に訂正を促します。

表 2-2: Peer Identity の方法

Peer Identity 方法	データフィールド	コメント
Peer IP/MAC	Peer IP アドレス	PCoIP またはポータル RDP クライアント

	Peer MAC アドレス	PCoIP
Peer FQDN	Peer FQDN	ポータル RDP クライアントとのみ使用

2.3.5.3 Enable Auto-Reconnect

Enable Auto-Reconnect オプションによりポータルは、セッションが失われた際に最後に接続したホストに自動的に再接続する事が出来ます。

2.3.5.4 Session Timeout

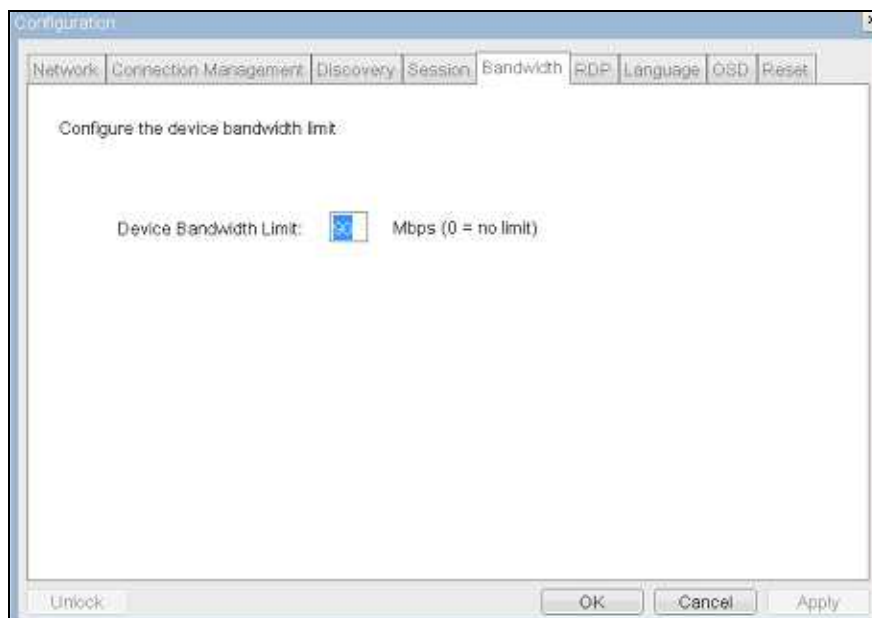
Session Timeout は、接続のタイムアウトを設定します。PCoIP プロセッサがタイムアウト期間内にネットワークを検出できない場合、PCoIP プロセッサはセッションを切断します。

2.3.6 Bandwidth タブ

Bandwidth タブにより管理者は、ポータルバンド幅を制限する事が出来ます。

注意：バンド幅は、ウェブページ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.6 Bandwidth を参照してください。

図 2-9: Bandwidth



2.3.6.1 Device Bandwidth Limit

Device Bandwidth Limit パラメータは PCoIP システムの最大バンド幅ピークを定義します。ホスト側のバンド幅設定は、ホストからポータルのバンド幅を定義します。（例えばグラフィックデータ）そしてポータル側のバンド幅設定は、ポータルからホストのバンド幅を定義します。（例えば USB データ）使用可能なバンド幅の範囲は、3 から 220 Mbps です。

PCoIP プロセッサは、必要なバンド幅を *Device Bandwidth Limit* の最大値まで使い続けます。PCoIP プロセッサはネットワークの混雑状況に応じて動的にバンド幅を調整します。

Device Bandwidth Limit を 0 にすると、ネットワークの混雑状況に応じてバンド幅を調整するように PCoIP プロセッサを設定します。混雑が無い状態では、バンド幅の制限はありません。つまりプロセッサは利用可能な最大レートを使います。

Device Bandwidth Limit は、ポータル及びホストが接続されているネットワークの限界にセットすることを推奨します。

Device Bandwidth Limit の設定例については、セクション 4.3 バンド幅とイメージ設定例を参照してください。

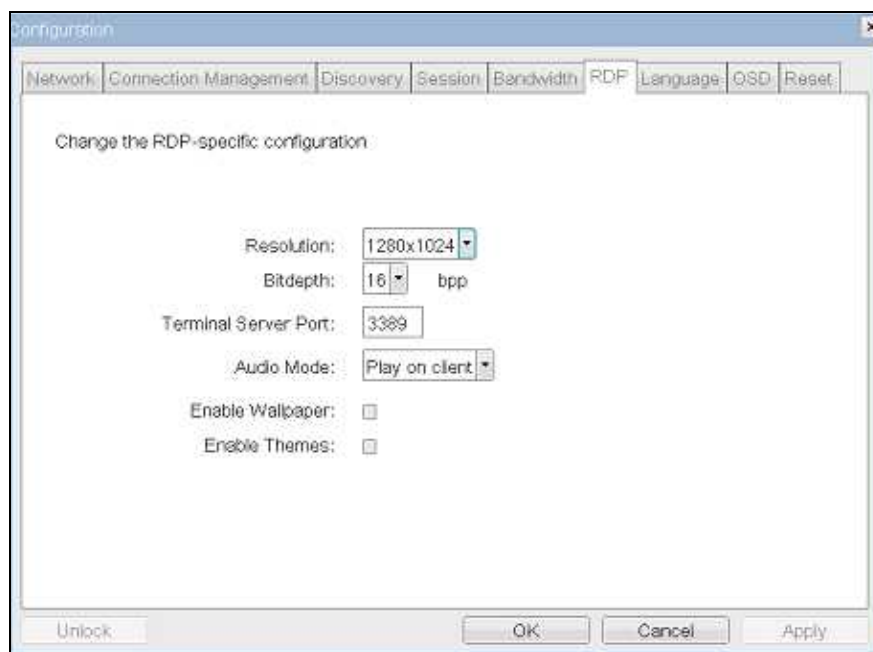
2.3.7 RDP タブ

RDP タブにより、管理者は Remote Desktop Protocol (RDP) に特化したデバイス設定を構成する事が出来ます。

ポータル RDP クライアントの情報については、セクション 6 付録 C: ポータル RDP 互換性を参照してください。

注意 : RDP パラメータは、ウェブページ官吏インターフェースを使い設定することも出来ます。セクション 1.6.7 RDP を参照してください。

図 2-10: RDP 設定



2.3.7.1 Resolution

Resolution フィールドは、RDP スクリーン解像度設定です。設定可能な値は :

- 800x600

- 1024x768
- 1280x768
- 1280x1024
- 1440x900
- 1600x1200
- 1680x1050
- 1920x1200

2.3.7.2 Bit Depth

Bit Depth は、RDP セッションカラービットの深さです。設定可能な値は：

- 8 bpp (ピクセル毎のビット数)
- 16 bpp
- 24 bpp

2.3.7.3 Terminal Server Port

Terminal Server Port フィールドには、RDP クライアントが接続するポート番号を設定します。

2.3.7.4 Audio Mode

Audio Mode フィールドは、RDP セッションにおいて何処でオーディオ再生を行うかを設定します。設定可能なオプションは：

- None
- Play on client
- Play on host

2.3.7.5 Enable Wallpaper

Enable Wallpaper フィールドは、RDP セッションでの壁紙の使用をイネーブルします。

2.3.7.6 Enable Themes

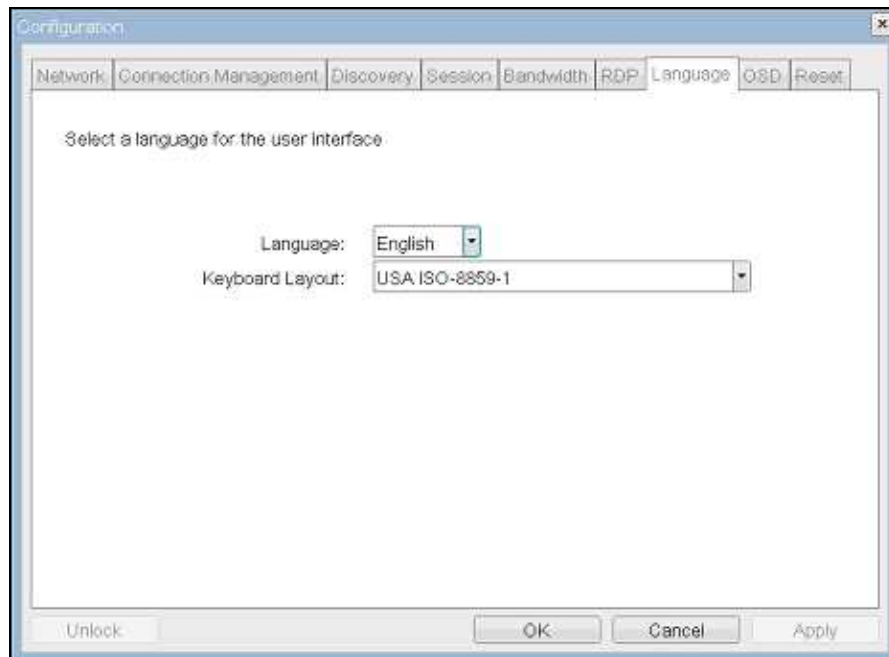
Enable Themes フィールドは、RDP セッションでのデスクトップテーマの使用をイネーブルします。

2.3.8 Language タブ

Language フィールドにより管理者は、OSD の言語を設定する事が出来ます。

注意：Language パラメータは、ウェブページ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.8 Language を参照してください。

図 2-11: Language 設定



2.3.8.1 Language

Language フィールドにより管理者は、OSD の言語を設定する事が出来ます。

サポートする言語については、セクション 5 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポートを参照してください。

2.3.8.2 Keyboard Layout

Keyboard Layout フィールドにより管理者は、キーボードレイアウトを変更する事が出来ます。

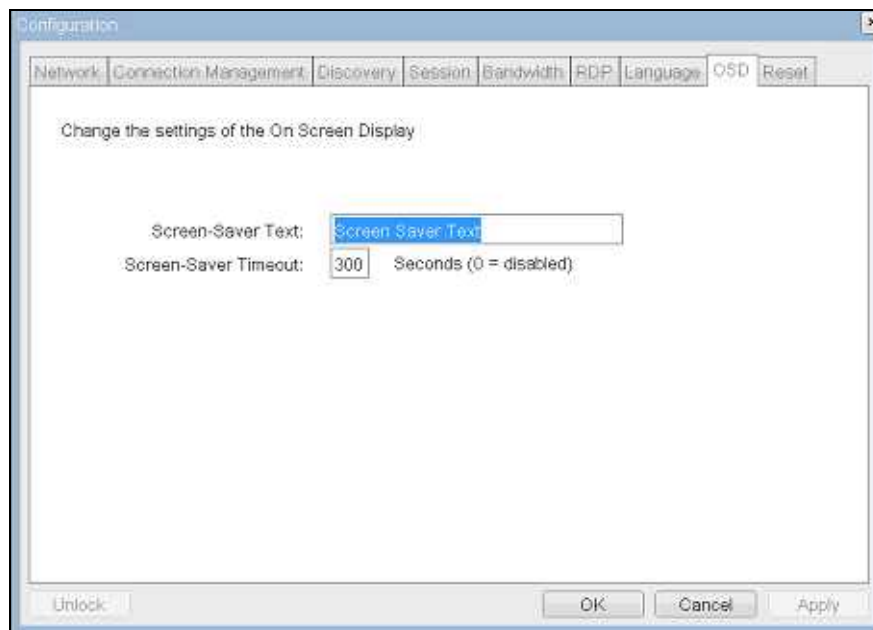
サポートするキーボードレイアウトについては、セクション 5 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポートの表 5-2 を参照してください。

2.3.9 OSD タブ

OSD タブにより管理者は、オンスクリーンディスプレイ(OSD)パラメータを変更する事が出来ます。

注意 : OSD パラメータは、ウェブ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.9 OSD を参照してください。

図 2-12: OSD 設定



2.3.9.1 Screen-Saver Message

Screen-Saver Message フィールドにより管理者は、OSD スクリーンセーバテキストを変更する事が出来ます。240 文字までのテキストが利用できます。

スクリーンセーバは、黒のスクリーンに文字がランダムに動き回る簡単なものです。

2.3.9.2 Screen-Saver Timeout

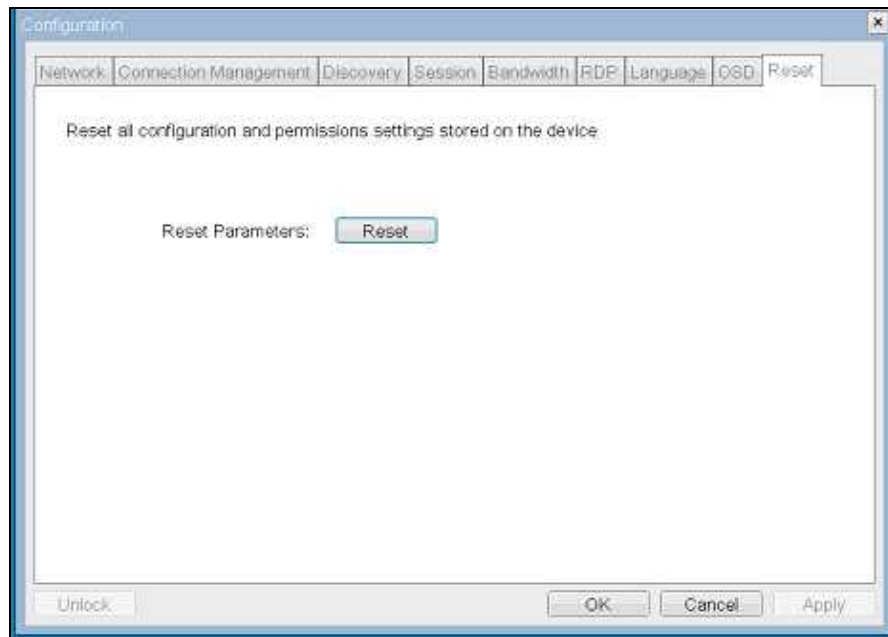
Screen-Saver Timeout フィールドにより管理者は、スクリーンセーバタイムアウトを設定する事が出来ます。タイムアウトは、秒単位で 9999 秒まで設定できます。0 をセットすると、スクリーンセーバをディセーブルします。

2.3.10 Reset タブ

Reset タブにより管理者は、フラッシュに保存された全ての設定可能パラメータをリセットする事が出来ます。

注意：リセットはウェブ管理インターフェースを使って行う事も出来ます。セクション 1.6.14 *Reset Parameters* を参照してください。

図 2-13: Reset



2.3.10.1 Reset Parameters

Reset Parameters ボタンは、全ての設定及び承認を工場出荷時の状態にリセットします。このボタンを選ぶと、不注意によるリセットを避けるために OSD は管理者に確認を促します。

2.4 Diagnostics ウィンドウ

Diagnostics ウィンドウにより管理者は、ポータルに関する診断用ウィンドウタブへアクセスする事が出来ます。*Diagnostics* ウィンドウにあるタブは：

- Event Log
- Session Statistics
- PColP Processor
- Ping

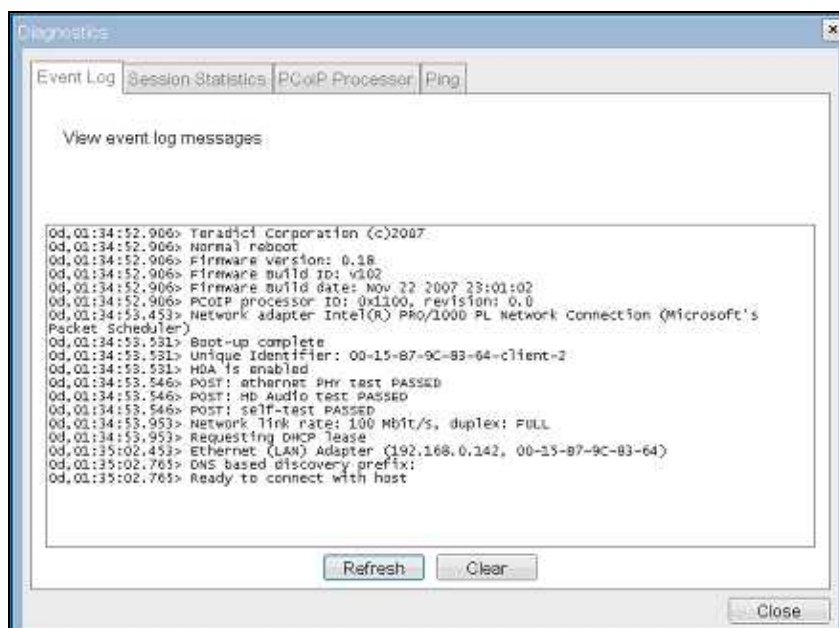
各タブには、ウィンドウをクローズするための *Close* ボタンがあります。

2.4.1 Event Log タブ

Event Log タブにより管理者は、ポータルからのイベントログメッセージを表示及びクリアする事が出来ます。

注意：イベントログ(*terse* または *verbose*)は、ウェブ管理インターフェースを使い開始することも出来ます。セクション 1.8.1 *Event Log* を参照してください。

図 2-14: Event Log



2.4.1.1 View event log message

View event log messages フィールドは、タイムスタンプと共にログメッセージを表示します。ここには、2つのボタンがあります。

Refresh

Refresh ボタンを選ぶと、イベントログメッセージが表示されます。

Clear

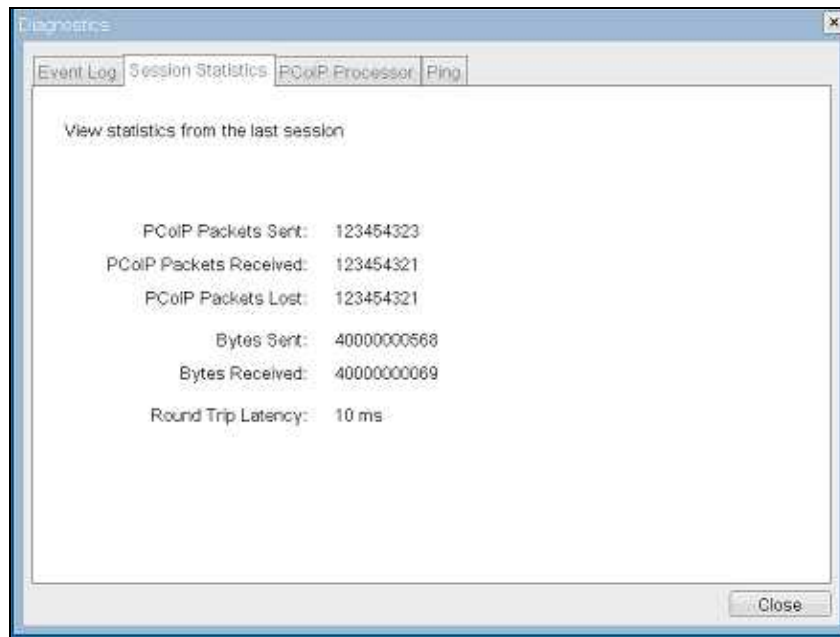
Clear ボタンを選ぶと、表示されている全てのイベントログをクリアします。

2.4.2 Session Statistics タブ

Session Statistics タブにより管理者は、PCoIP に特化した統計を見る事が出来ます。

注意： *Session Statistics* は、ウェブ管理インターフェースを使って見る事も出来ます。セクション 1.8.3 *Session Statistics* を参照してください。

図 2-15: Session Statistics



2.4.2.1 PCoIP Packets Statistics

PCoIP Packets Sent

PCoIP Packets Sent は、最後のアクティブなセッションにおいて、ポータルからホストへ送信された PCoIP パケットの総数を表示します。

PCoIP Packets Received

PCoIP Packets Received は、最後のアクティブなセッションにおいて、ホストからポータルへ受信された PCoIP パケットの総数を表示します。

PCoIP Packets Lost

PCoIP Packets Lost は、最後にのアクティブなセッションにおいて損失された PCoIP パケットの総数を表示します。

2.4.2.2 Bytes Statistics

Bytes Sent

Bytes Sent は、最後にのアクティブなセッションにおいて送信された総バイト数を表示します。

Bytes Received

Bytes Received は、最後にのアクティブなセッションにおいて受信された総バイト数を表示します。

2.4.2.3 Round Trip Latency

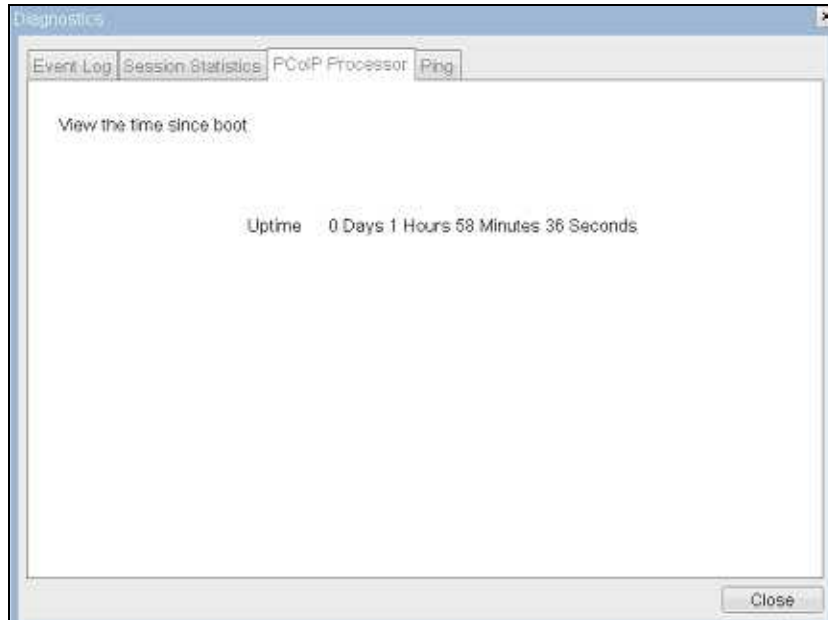
Round Trip Latency フィールドは、PCoIP システムの総ラウンドトリップ（例えばポータルからホスト、そしてポータルへ戻る）及びネットワーク遅延をミリ秒単位(+/- 1 ms) で表示します。

2.4.3 PCoIP Processor タブ

PCoIP Processor タブにより管理者は、ポータル PCoIP プロセッサが最後に起動してからの経過時間を見る事が出来ます。

注意：The PCoIP Processor 経過時間は、ウェブ管理インターフェースを使い表示する事も出来ます。セクション 1.8.7 PCoIP Processor を参照してください。

図 2-16: PCoIP Processor

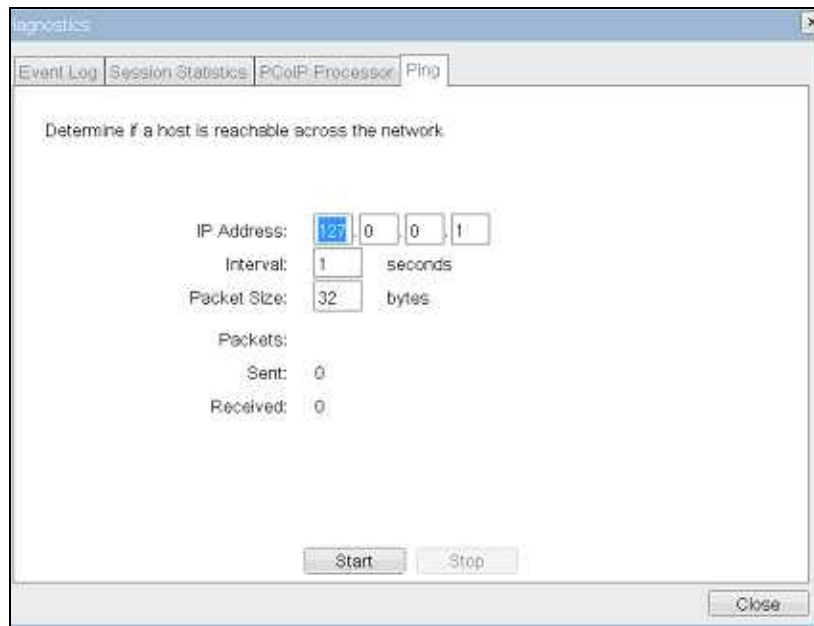


2.4.4 Ping タブ

Ping タブにより管理者は、デバイスをピング(Ping)しデバイスが IP ネットワークにおいて到達可能であるか確認する事が出来ます。

注意：セクション 1 のウェブ管理インターフェースに、Ping タブに該当するメニューはありません。

図 2-17: Ping



2.4.4.1 Ping 設定

IP アドレス	ピング(ping) する IP アドレス
Interval	ピングパケット(ping packet) 間隔
Packet Size	ピングパケット(ping packet) サイズ

2.4.4.2 Packets

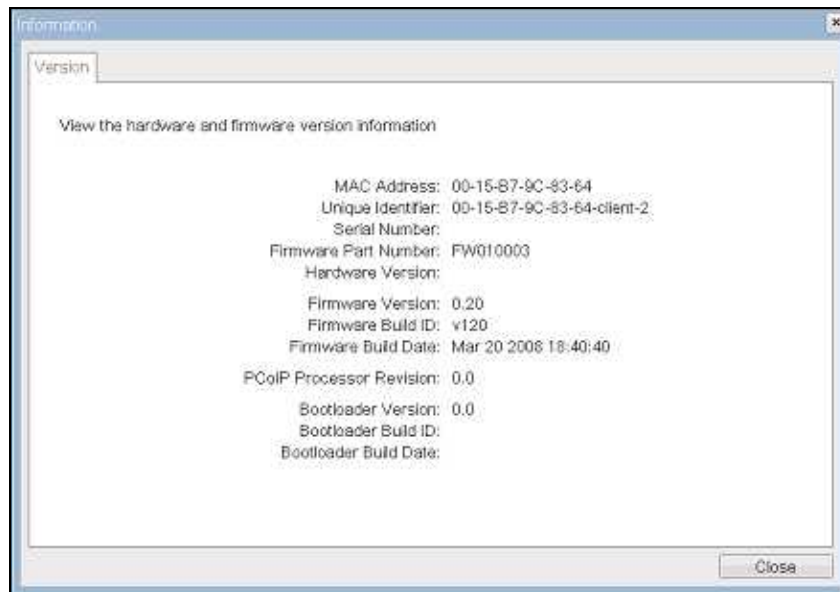
Sent	送信されたピングパケット(ping packet) 数
Received	受信したピングパケット(ping packet) 数

2.5 Information ウィンドウ

Information ウィンドウにより管理者は、デバイスに関する情報を含んだ Version タブへアクセスする事が出来ます。

注意 : Version 情報は、ウェブ管理インターフェースを使って見る事も出来ます。セクション 1.9.1 Version を参照してください。

図 2-18: Version



2.5.1.1 VPD 情報

Vital Product Data (VPD)は、それぞれのポータルまたはホストを固有に識別するために工場 で用意されます。

表 2-3: VPD 情報

MAC Address	ポータルの固有 MAC アドレス
Unique Identifier	ポータルの固有識別子
Serial Number	ポータルの固有シリアル番号
Firmware Part Number	PCoIP ファームウェアのパートナンバ
Hardware Version	ポータルハードウェアバージョンナンバ

2.5.1.2 ファームウェア情報

ファームウェア情報は、現在の PCoIP ファームウェアの詳細を表します。

表 2-4: ファームウェア情報

Firmware Version	現在の PCoIP ファームウェアのバージョン
Firmware Build ID	現在の PCoIP ファームウェアのリビジョンコード
Firmware Build Date	現在の PCoIP ファームウェアのビルド日付

2.5.1.3 PCoIP プロセッサリビジョン

PCoIP Processor Revision フィールドは、PCoIP プロセッサリビジョンコードです。TERA1x00 リビジョン A シリコンは 0.0、TERA1x00 リビジョン B は 1.0 で表されます。

2.5.1.4 ブートローダ情報

ブートローダ情報は、現在の PCoIP ブートローダの詳細を表しています。

表 2-5: ブートローダ情報

Bootloader Version	現在の PCoIP ブートローダのバージョン
Bootloader Build ID	現在の PCoIP ブートローダのリビジョンコード
Bootloader Build Date	現在の PCoIP ブートローダのビルド日付

2.6 User Settings ウィンドウ

User Settings ウィンドウによりユーザは、マウス、キーボード設定及び PCoIP イメージクオリティを定義するウィンドウタブへアクセスする事が出来ます。

User Settings メニューにあるタブは：

- Mouse
- Keyboard
- Image

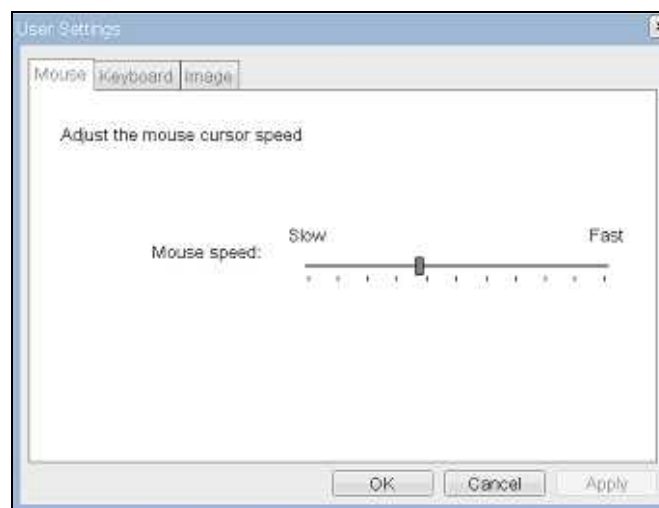
2.6.1 Mouse タブ

Mouse タブによりユーザは、OSD 及び RDP セッション用にマウスカーソル速度を変更する事が出来ます。

注意：OSD マウスカーソル速度は、PCoIP セッションがアクティブな時にはマウスカーソル設定に影響しません。

注意：セクション 1 のウェブ管理インターフェースに、*Mouse* タブに該当するメニューはありません。

図 2-19: Mouse



Mouse Speed

Mouse Speed フィールドにより、ポータルマウスカーソル速度を設定する事が出来ます。

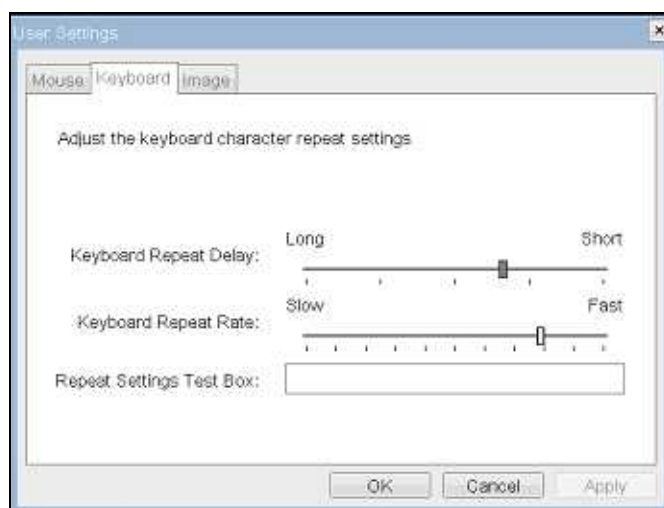
2.6.2 Keyboard タブ

Keyboard タブによりユーザは、OSD 及び RDP セッション用にキーボードリピート設定を変更する事が出来ます。

注意：キーボード設定は、PCoIP セッションがアクティブな時にはキーボード設定に影響しません。

注意：セクション 1 のウェブ管理インターフェースに、*Keyboard* タブに該当するメニューはありません。

図 2-20: Keyboard



Keyboard Repeat Delay

Keyboard Repeat Delay フィールドによりユーザは、ポータルキーボードリピートディレイを設定する事が出来ます。

Keyboard Repeat Rate

Keyboard Repeat Rate フィールドによりユーザは、ポータルキーボードリピートレートを設定する事が出来ます。

Repeat Settings Test Box

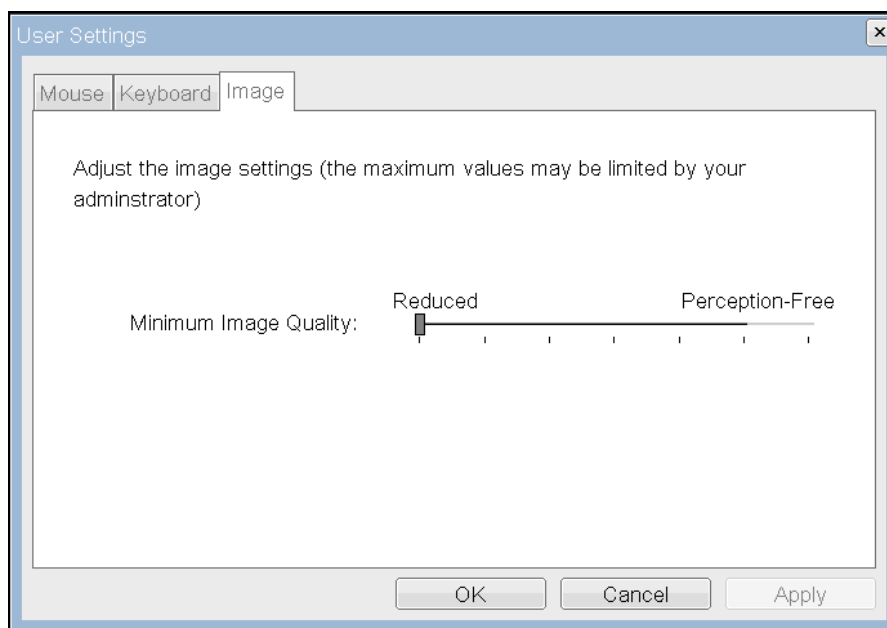
Repeat Settings Test Box フィールドによりユーザは、選択したキーボード設定のテストを行う事が出来ます。

2.6.3 Image タブ

Image タブによりユーザは、PCoIP システム上のイメージ設定を変更する事が出来ます。

注意：Image パラメータは、ウェブ管理インターフェースを使い設定する事も出来ます。セクション 1.6.10.1 Minimum Image Quality を参照してください。

図 2-21: Image



Minimum Image Quality

Minimum Image Quality スライダーにより管理者は、ネットワークバンド幅が限られている場合に、イメージクオリティとフレームレートの間で妥協点を見出します。実使用例によっては、高いフレームレートで低いイメージクオリティを必要とするケースがありますし、他のケースでは低いフレームレートで高いイメージクオリティが好まれる場合があります。

ネットワークバンド幅が制約された環境では、スライダーを *Reduced* に向かい動かすと高いフレームレートへ、スライダーを *Perception-Free* に向かい動かせば高いイメージクオリティとなります。

ネットワークバンド幅に制約が無い環境では、PCoIP システムは *Minimum Image Quality* の設定にかかわらず視覚的に影響の無いクオリティを保ちます。

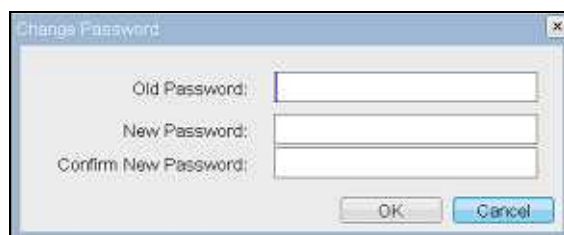
2.7 Password ウィンドウ

Password ウェブページにより管理者は、デバイスのためのローカル管理用パスワードを更新する事が出来ます。これはウェブインターフェース及びローカル OSD GUI に影響することに注意してください。

注意：パスワードを紛失するとポータルが使用不可能になるので、ポータルパスワードを更新する際は十分に注意してください。

注意：パスワードは、ウェブ管理インターフェースを使い更新する事も出来ます。セクション 1.6.13 *Password* を参照してください。

図 2-22: Change Password

**Old Password**

パスワードの更新には、*Old Password* フィールドは、現在の管理用パスワードと一致しなければなりません。

New Password

New Password フィールドは、ウェブインターフェース及びローカル OSD GUI の両方に適用する新たな管理用パスワードです。

Confirm New Password

パスワードの更新には、*Confirm New Password* フィールドは、*New Password* フィールドと一致しなければなりません。

3 オーバーレイウィンドウ

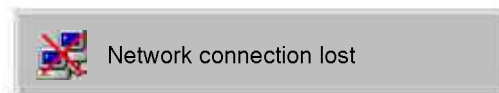
オーバーレイウィンドウは、PCoIP セッション中にユーザに情報を表示するメカニズムを提供します。これらのウィンドウは、状況に応じてユーザのリモートセッションの一番上に表示されます。

ステータスオーバーレイウィンドウは、ネットワーク、USB デバイス状態及びモニタ状態をアイコンとテキストを使い表示します。オーバーレイは、状態が変わった場合（ネットワーク接続が失われる又は非承認 USB デバイスが挿入された）に簡単なアニメーションを表示します。

3.1 Network Connection Lost オーバーレイ

ネットワーク接続が失われると、オーバーレイメッセージを使い「Network connection lost」のメッセージが、最新のスクリーンデータ上に表示されます。図 3-1 に例を示します。

図 3-1: Network Connection Lost オーバーレイ

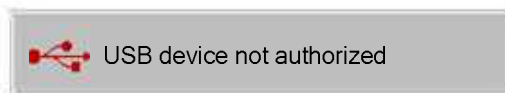


ネットワーク接続の喪失メッセージは、ネットワークが正常に戻るかタイムアウトが失効する（そして PCoIP セッションが終了する）まで保持されます。

3.2 USB Device Not Authorized オーバーレイ

非承認 USB デバイスが接続されると、「USB device not authorized」のメッセージでオーバーレイが表示されます。図 3-2 に例を示します。

図 3-2: USB Device Not Authorized オーバーレイ

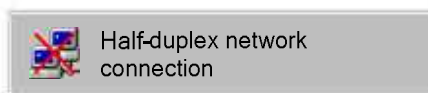


オーバーレイは、約 5 秒間表示されます。

3.3 Half-Duplex オーバーレイ

PCoIP テクノロジは、Half-Duplex ネットワーク接続と互換ではありません。Half-duplex 接続が検出されると、「Half-duplex network connection」のメッセージでオーバーレイが表示されます。図 3-3 に例を示します。

図 3-3: Half-Duplex Overlay



オーバーレイは、セッションが終了するまで表示されます。ネットワーク設定の詳細は、セクション 1.6.2.7 Ethernet Mode を参照してください。

3.4 Video Source オーバーレイ

ホストビデオの不適切な接続は、2つのオーバーレイのいずれかにより表示されます。

PCoIP ホストにビデオソースが接続されていないと、「No source signal」のメッセージがオーバーレイで表示されます。これによりユーザは、ホストにビデオソースがない場合やホスト PC がビデオ信号の駆動を停止した場合のデバッグが出来ます。これはホスト PC ビデオを PCoIP ホストへ接続する事で解決できます。オーバーレイの例を図 3-4 に示します。

図 3-4: No Source Signal オーバーレイ



ホストへのビデオソースがポータル上で使われるビデオポートと一致しない場合、「Source signal on other port」のメッセージがオーバーレイで表示されます。これによりユーザは、誤ったポートにビデオを接続した場合のデバッグが出来ます。これは、ホストまたはポータル上で使われるビデオポートを入れ替える事で解決できます。オーバーレイの例を図 3-5 に示します。

図 3-5: Source Signal on Other Port オーバーレイ



オーバーレイは、約 60 秒間表示されます。モニタは約 15 分後にスリープ状態になります。

4 付録 A: 使用例

4.1 ピアツーピア直接接続例

この例では、コネクションマネージャまたは Enable Host Discover オプションを使わずに、ポータル及びホストを直接接続するための設定の概要を示します。

この例では次の IP 及び MAC アドレスを使います。：

- Portal: IP Address: 192.168.42.149, MAC: 00-1C-59-00-05-0E
- Host: IP Address: 192.168.50.107, MAC: 00-1C-8A-03-00-CA

注意：ピアツーピア直接接続では、管理者はポータル及びホストの IP 及び MAC アドレスを知らなければなりません。

4.1.1 ポータルピアツーピア動作の設定

注意：この例ではポータルをピアツーピア動作に設定するために、管理用ウェブインターフェースを使います。ポータルの設定には、ポータル OSD を使う事も出来ます。一致する OSD 機能には、T オンスクリーンディスプレイ(OSD)を参照してください。

ポータルをピアツーピア直接接続に設定します。：

1. インターネットブラウザを使いポータル IP アドレスを開き、ポータル管理用ウェブインターフェースを開きます。例、<https://192.168.42.149>
2. ポータル管理ウェブインターフェースへログインします。
3. *Configuration* メニューから、*Connection Management* ウェブページを選びます。

図 4-1: ポータル Connection Management ピアツーピア設定



The screenshot shows the 'Connection Management' configuration page. At the top, there is a navigation bar with links: Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload. Below the navigation bar is a header image showing a computer monitor displaying a landscape. The main content area is titled 'Connection Management' and contains the following settings:

- Enable Connection Management:
- Identify Connection Manager by: IP address FQDN
- Connection Manager IP Address: . . .
- Enable Event Log Notification:
- Enable Diagnostic Log:

At the bottom of the form are two buttons: 'Apply' and 'Cancel'.

4. Enable Connection Management が選ばれている事を確認します。
5. *Configuration* メニューから、*Session* ウェブページを選びます。

図 4-2: ポータル Session ウェブページピアツーピア設定



Home Configuration Permissions Diagnostics Info Upload

Session

Configure the connection to a peer device

Accept Any Peer (host only):

Session Type (portal only): PCoIP

Identify Peer by: IP address FQDN (RDP only)

Peer IP Address: 192.168.50.107

Peer MAC Address: 00-1C-8A-03-00-CA

Enable Auto-Reconnect (portal only):

Session Timeout: 30 seconds

Apply Cancel

6. Identify Peer by フィールドで IP アドレスを選びます。
7. Peer IP Address フィールドに、ホスト IP アドレスを入力します。例えば、192.168.50.107
8. Peer MAC Address フィールドにホスト MAC アドレスを入力します。例えば、00-1C-8A-03-00-CA
9. Apply ボタンを選び、変更を受け入れます。
10. Diagnostics メニューから PCoIP Processor ウェブページを選びます。

図 4-3: ポータル PCoIP Processor ウェブページピアツーピア設定



11. PCoIP プロセッサをリセットするために、*Reset* ボタンを選びます。

4.1.2 ホストピアツーピア動作の設定

ホストをピアツーピア直接接続用に設定します。 :

1. インターネットブラウザでホスト IP を開く事で、ホスト管理ウェブインターフェースを開きます。例えば、<https://192.168.50.107>
2. ポータル管理ウェブインターフェースへログインします。
3. *Configuration* メニューから *Connection Management* ウェブページを選びます。

図 4-4: ホスト Connection Management ピアツーピア設定

Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Connection Management

Configure the device for a managed connection

Enable Connection Management:

Identify Connection Manager by: IP address FQDN

Connection Manager IP Address:

Enable Event Log Notification:

Enable Diagnostic Log:

Apply Cancel

4. Enable Connection Management が選ばれている事を確認します。
5. *Configuration* メニューから *Session* ウェブページを選びます。

図 4-5: ホスト Session ウェブページ設定



6. *Accept Any Peer* が選ばれていない事で、他のポータルがホストとの間で PCoIP セッションを開始できない事を確認してください。
7. *Peer MAC Address* フィールドにポータル MAC アドレスを入力します。例えば、00-1C-59-00-05-0E など。
8. 変更を適用するために、*Apply* ボタンを選びます。

4.1.3 ピアツーピアセッションの開始

ピアツーピアセッションを開始します。

1. ポータル OSD から、PCoIP セッションを開始するために *Connect* ボタンを選びます。

図 4-6: ピアツーピア Connect スクリーン



2. 接続されると、ホストは PCoIP で使用する準備が出来ます。

4.2 DHCP 及び Enable Host Discovery の例

この例ではコネクションマネージャを使わずに、ポータル及びホストを DHCP サーバと Host Discovery 機能で使用する設定を説明します。

この例では、次の開始 IP アドレスを使います。

- Portal: IP Address: 192.168.0.111
- Host: IP Address: 192.168.1.222

注意：DHCP 及び Host Discovery に設定するために管理者は、静的または動的にかかわらずポータル及びホストの IP アドレスを知っておく必要があります。

4.2.1 ポータル DHCP 及び Discovery の設定

注意：この例では DHCP 及び Host Discovery 用にポータルを設定するために管理ウェブインターフェースを使いますが、ポータルの設定にはポータル OSD を使う事も出来ません。該当する OSD 機能に関しては、セクション 2 オンスクリーンディスプレイ(OSD)を参照してください。

ポータルを DHCP 及び Discovery に設定します。：

1. インターネットブラウザを使いポータルIP アドレス（例えば https://192.168.0.111）を開き、ポータル管理ウェブインターフェースを開きます。
2. ポータル管理ウェブインターフェースへログインします。
3. *Configuration* メニューから *Connection Management* ウェブページを選びます。

図 4-7: ポータル Connection Management DHCP 及び Discovery 設定



Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Connection Management

Configure the device for a managed connection

Enable Connection Management:

Identify Connection Manager by: IP address FQDN

Connection Manager IP Address: . . .

Enable Event Log Notification:

Enable Diagnostic Log:

Apply Cancel

4. Enable Connection Management が選択されていない事を確認します。
5. *Configuration* メニューから *Discovery* ウェブページを選びます。

図 4-8: ポータル Discovery ウェブページ Enable Discovery 設定



6. Enable Discovery 及び Enable Host Discovery を選びます。
7. Apply ボタンを選び、変更を了承します。
8. 設定を完了するために Continue を選びます。
9. Configuration メニューから Network ウェブページを選びます。

図 4-9: ポータル Network ウェブページ DHCP 設定



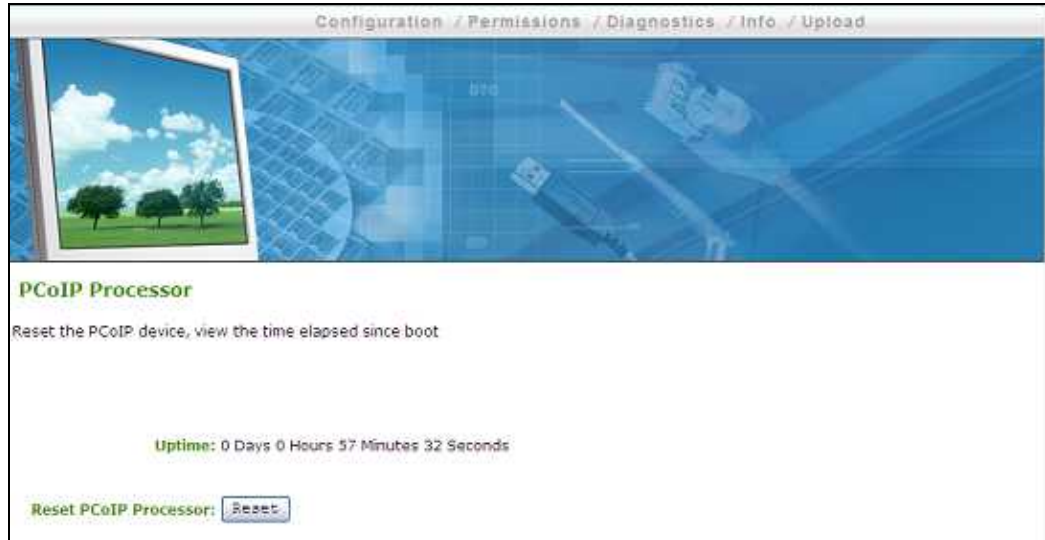
10.Enable DHCP を選びます。

11.*Apply* ボタンを選び、変更を了承します。

注意：一旦 DHCP に設定すると、IP アドレスは DHCP サーバから取得します。次回からは IP アドレスは DHCP サーバから得る事になります。

12.*Diagnostics* メニューから *PCoIP Processor* ウェブページを選びます。

図 4-10: ポータル PCoIP Processor ウェブページ DHCP 及び Discovery 設定



13.PCoIP プロセッサをリセットするために *Reset* ボタンを選びます。

4.2.2 ホスト DHCP 及び Discovery の設定

ホストを DHCP 及び Discovery 用に設定します：

1. インターネットブラウザを使いホスト IP アドレスを開き（例えば <https://192.168.1.222>）、管理ウェブインターフェースを開きます。
2. ホストウェブインターフェースへログインします。
3. *Configuration* メニューから、*Connection Management* ウェブページを選びます。

図 4-11: ホスト Connection Management DHCP 及び Discovery 設定

Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Connection Management

Configure the device for a managed connection

Enable Connection Management:

Identify Connection Manager by: IP address FQDN

Connection Manager IP Address: . . .

Enable Event Log Notification:

Enable Diagnostic Log:

Apply Cancel

4. Enable Connection Management が選ばれていない事を確認します。
5. *Configuration* メニューから *Discovery* ウェブページを選びます。

図 4-12: ホスト Discovery ウェブページ Enable Discovery 設定

Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Discovery

Automatically discover other PCoIP devices

Enable Discovery:

Enable Host Discovery (client only):

Apply Cancel

6. Enable Discovery を選びます。
7. *Apply* ボタンを選び、変更を了承します。
8. *Configuration* メニューから *Network* ウェブページを選びます。

図 4-13: ホスト Network ウェブページ DHCP 設定



The screenshot shows the 'Network' configuration page in the Teradici administrative interface. The breadcrumb trail at the top is 'Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload'. The page title is 'Network' and the instruction is 'Change the network settings for the device'. The settings are as follows:

- Enable DHCP:
- IP Address: 192.168.0.41
- Subnet Mask: 255.255.254.0
- Gateway: 192.168.1.100
- Primary DNS Server: 192.168.1.50
- Secondary DNS Server: 192.168.1.52
- VLAN Tag: 0
- Ethernet Mode (client only): Auto

Buttons for 'Apply' and 'Cancel' are located at the bottom of the form.

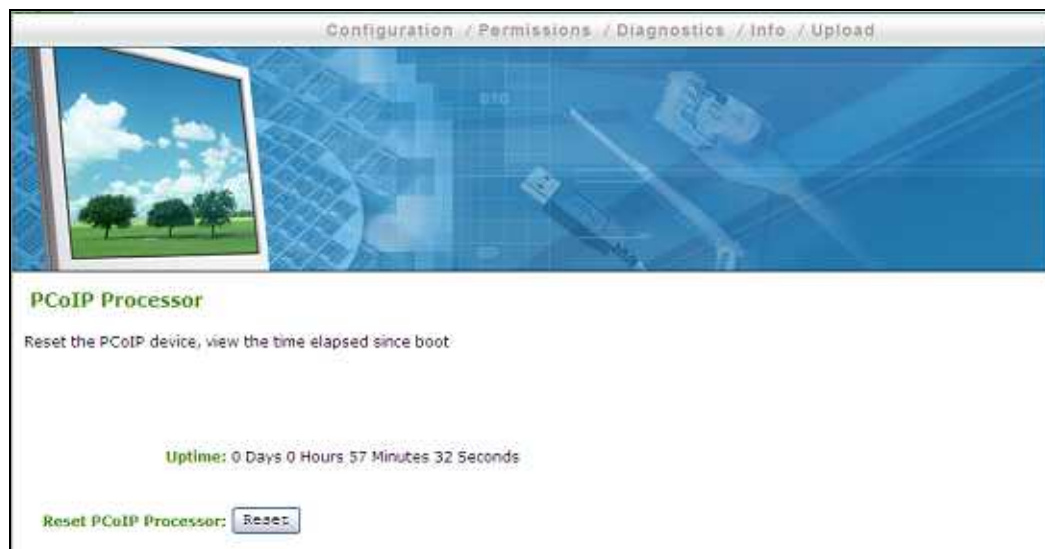
9. Enable DHCP を選びます。

10. Apply ボタンを選んで、変更を了承します。

注意：一旦 DHCP に設定すると、IP アドレスは DHCP サーバから取得します。次回からは IP アドレスは DHCP サーバから得る事になります。

11. Diagnostics メニューから、PCoIP Processor ウェブページを選びます。

図 4-14: ホスト PCoIP Processor ウェブページ DHCP 及び Discovery 設定



The screenshot shows the 'PCoIP Processor' configuration page in the Teradici administrative interface. The breadcrumb trail at the top is 'Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload'. The page title is 'PCoIP Processor' and the instruction is 'Reset the PCoIP device, view the time elapsed since boot:'. The uptime is displayed as 'Uptime: 0 Days 0 Hours 57 Minutes 32 Seconds'. A 'Reset PCoIP Processor' button is located at the bottom.

12. *Reset* ボタンを選び、PCoIP プロセッサをリセットします。

注意：ホストは、直ちにリセットされません。リセットは、ホスト PC がリスタート、スタンバイに入る、休止あるいはパワーオフするまで延期されます。

4.2.3 DHCP Discovery セッションの開始

DHCP discovery セッションを開始します。

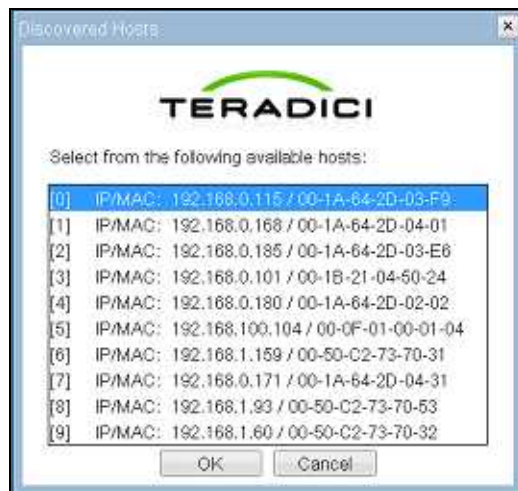
1. ポータル OSD から、*Connect* ボタンを選び利用可能ホストの検出を開始します。

図 4-15: DHCP Discovery Connect スクリーン



2. *Discovered Hosts* スクリーンから希望するホストを選び、*OK* を選びます。

図 4-16: 検出されたホストスクリーン



3. 接続すると、ホストコンピュータはPCoIP で使用する事が出来ます。

4.3 バンド幅とイメージ設定例

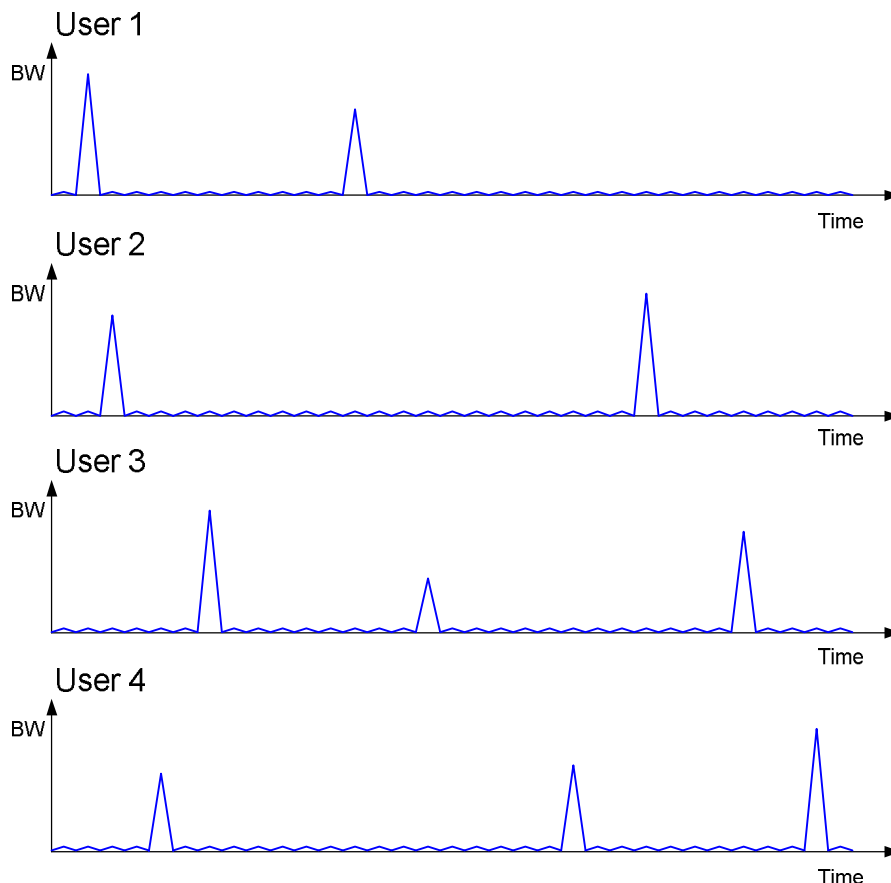
この例では、バンド幅が制限された環境で、ユーザエクスペリエンスを最適化するための手順を説明します。ここでは、4人のタスクベースワーカー（ウェブブラウズ、簡単なワードプロセッシング、簡単なスプレッドシートの変換及び小さなビデオウィンドウ）が1つの100-Mbpsスイッチを共有すると想定します。

これらのタスクの内容から、ユーザは著しいグラフィック変化を必要とせず、各ユーザはおそらく異なる時間にピークネットワークバンド幅を必要とする事が考えられます。

図 4-17 は、各ユーザが 100 Mbps フルに利用可能であることを仮定とした場合の、簡略化したバンド幅の要求を表しています。図は各ユーザからのネットワーク要求のピークが、短い期間内のみである事を示しています。（例えばウインドウのオープン/クローズ、ページのスクロール等）

PCoIP システムは、利用可能なネットワークバンド幅に即座に適應するので、システムのデフォルトを保持する事を推奨します。しかしながら次の例は、必要に応じてどのようにデフォルトを適應するかを表しています。

図 4-17: 簡略化したユーザバンド幅要求 (100 Mbps と仮定)



4.3.1 ホストバンド幅を 25 Mbps に制限する設定

この例では、ネットワークはパケット損失を最小限にするよう設定します。ネットワークは、混雑に対してパケットの損失で応答します。PCoIP プロセッサは、失われたパケットにたいして生成するバンド幅の量を減らす事で応答します。多くの場合、PCoIP プロセッサはユーザが感知しないようにパケット損失を隠します。しかしながら、バンド幅が低い又はネットワーク遅延が高いような幾つかのケースでは、各ユーザに利用可能なバンド幅を制限する事で、混雑によるパケット損失を避けるほうが好まれる場合があります。この例では各ユーザへのピークバンド幅を、25 Mbps に完全に制限しました。（ファームウェアは、25 Mbps 以上の使用を行いません）。

さらに 20 Mbps を目標値とする事で、ネットワークの混雑時にバンド幅は急速に 20 Mbps へ低下しますが、それ以下ではゆっくりと低下します。これにより他のネットワ

ークトラフィックがさらにリンクを混雑させるような場合、利用可能なバンド幅は公平に共有されます。

注意：この例ではポータルからホストへ、非常に少ないデータが必要な状況を想定しています。(USB キーボード及びマウスデータ)それ故、ホストバンド幅のみ制限されます。完璧とするには、ポータルバンド幅も制限する事が考えられます。

1. 最初のユーザのホスト用にホスト IP アドレスを開くために、インターネットブラウザを使ってホスト管理ウェブインターフェースを開きます。
2. ホスト管理ウェブインターフェースにログインします。
3. *Configuration* メニューから *Bandwidth* ウェブページを選びます。

図 4-18: ホスト Bandwidth Limit 設定(25 Mbps)



Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Bandwidth

Configure the device bandwidth limit

Device Bandwidth Limit: Mbps (0 = no limit)

Device Bandwidth Target: Mbps (0 = disabled)

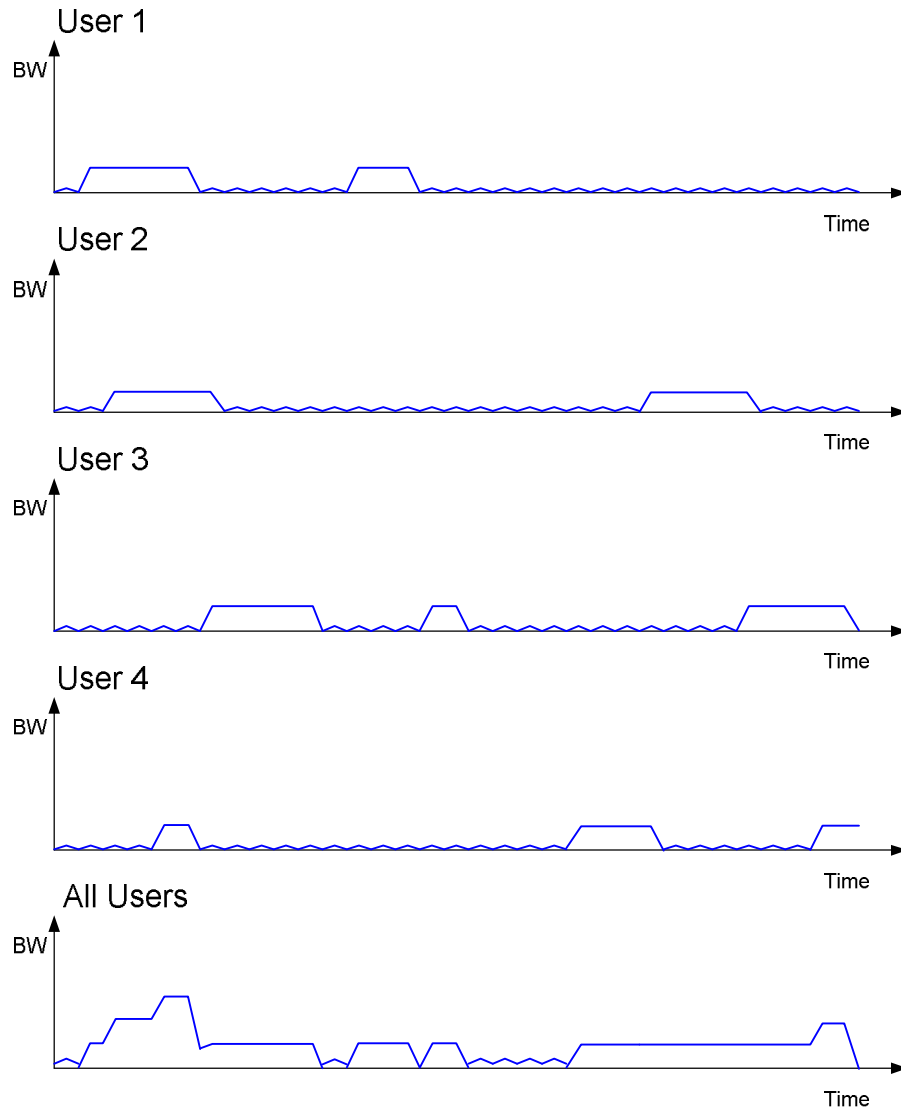
4. Device Bandwidth Limited フィールドに 25 を入力します。
5. Device Bandwidth Target フィールドに 20 を入力します。
6. *Apply* ボタンを選び、変更を了承します。
7. 他の 3 人のユーザのホスト用に繰り返します。

これでバンド幅は 25 Mbps へ制限され、各ユーザの目標値は 20 Mbps となります。

図 4-19 は、各ユーザを 25 Mbps の設定で制限した簡略化されたバンド幅の使用を示しています。この図では全てのユーザは 25 Mbps に制限されており、必要としてもそれ以上のバンド幅へアクセスする事は出来ません。また、全ユーザで使用するバンド幅を合計してもスイッチの総バンド幅(100 Mbps)を超える事はありません。

ここには混雑がないので、バンド幅を目標値の 20 Mbps 又はそれ以下へ削減する必要がない事に注意してください。

図 4-19: 簡略化したユーザバンド幅の要求(25 Mbps)



4.3.2 イメージプロパティの設定

上記セクションでは、バンド幅は 25 Mbps へ制限され、目標値は 20 Mbps でした。使い方によっては、最高のクオリティとフレームレートでディスプレイをレンダするために、ユーザは時として制限されたバンド幅以上を必要とする事が考えられます。PCoIP システムはイメージングクオリティとは別に、バンド幅が制限された環境下でユーザエクスペリエンスを最適化することができる 2 つの制御を与えます。

PCoIP でバランスされたクオリティ/フレームレートアルゴリズムが提供するより高いイメージクオリティを好むユーザには、ポータル *Minimum Image Quality* 設定を上げる事が効果的かもしれません。

Maximum Initial Image Quality 設定は、あらゆるユーザにより要求されたピークバンド幅も変更する事が出来ます。*Maximum Initial Image Quality* をデフォルトの 90 から下げ

る事は、ユーザエクスペリエンスの最低限度を保ちながら、ユーザにより要求されるバンド幅の量を減らす事が出来ます。

注意：この例では **Minimum Image Quality** 及び **Maximum Initial Image Quality** のためにポータルを設定するために、管理ウェブインターフェースを使います。ポータルの設定には、ポータル OSD を使う事も出来ます。該当する OSD 機能については、セクション 2 オンスクリーンディスプレイ(OSD)を参照してください。ポータル OSD 上には、**Maximum Initial Image Quality** に該当するパラメータはありません。それはネットワークトラフィックへの影響度を考慮し、管理者専用のパラメータとされています。

1. 最初のユーザのホスト用にポータル IP アドレスを開くために、インターネットブラウザを使ってポータル管理ウェブインターフェースを開きます。
2. ポータル管理ウェブインターフェースへログインします。
3. *Configuration* メニューから *Image* ウェブページを選びます。

図 4-20: ポータル Minimum Image Quality 設定



4. *Minimum Image Quality* スライダーを右にスライドします。
5. *Maximum Initial Image Quality* スライダーを左にスライドします。
6. *Apply* ボタンを選び変更を了承します。
7. 他の 3 人のユーザポータル用に繰り返します。

これで *Minimum Image Quality* は、いかなる状態においてもシステムが削減する最低イメージクオリティを上げるために、*Perception-Free* へ向かって設定されました。この影響は、制限されたバンド幅のケースに限り気づくと思われます。バンド幅が制限されていないならば、システムは常に視覚的に影響の無いクオリティを保ちます。*Minimum Image Quality* 機能は、ユーザの全体のバンド幅要求を変えることはありません。

これで *Maximum Initial Image Quality* は、変化したイメージ（初期ビデオフレーム）のクオリティを制限するために *Reduced* へ向かい設定されました。より低いクオリティの

初期イメージは作成に少ないバンド幅が必要なので、低いほうの *Maximum Initial Image Quality* 設定は少ないバンド幅が必要です。このケースでは、管理者とユーザは *Maximum Initial Image Quality* を 60 に設定する事が、*Device Bandwidth Limit* で絶対的な制限を設定するよりもバンド幅を削減するには良い方法であると決断しました。

Maximum Initial Image Quality 設定にかかわらず、PCoIP システムは常にディスプレイの変化の無い領域をロスレスイメージとして作ります。

注意： **Minimum Image Quality** 設定は、常に **Maximum Initial Image Quality** 設定より少ないか、あるいは等しくなければなりません。

4.3.3 ホストバンド幅を 0 Mbps に制限 (制限無し)

セクション 4.3.1 では、バンド幅は 25 Mbps に制限され目標値は 20 Mbps でした。このセクションでは、グループの使用特性を利用するために PCoIP デフォルトバンド幅及びイメージング設定が使われます。(この例の特性は、多くの実際の使用グループに近いものです)ここでは、より効果的なバンド幅の共有を行うために、*Device Bandwidth Limit* 及び *Device Bandwidth Target* を 0 (制限無し) に設定します。PCoIP ファームウェアは、共有ネットワーク上の公平性を保とうとするバンド幅適応アルゴリズムを実装する事で、バンド幅の混雑を軽減します。ファームウェアは、イーサネット物理層デバイスにより決定されるバンド幅を使います。

注意：ここではポータルからホストへ、非常に少ないデータが必要な状況を想定しています。(USB キーボード及びマウスデータ)それ故、ホストバンド幅のみ制限されます。完璧とするには、ポータルバンド幅も制限する事が考えられます。

最初のユーザのホスト用にホスト IP アドレスを開くために、インターネットブラウザを使ってホスト管理ウェブインターフェースを開きます。Open the Host Administration

1. ホスト管理ウェブインターフェースへログインします。
2. *Configuration* メニューから *Bandwidth* ウェブを選びます。

図 4-21: ホスト Bandwidth Limit 設定(0 Mbps、制限無し)

Configuration / Permissions / Diagnostics / Info / Upload

Bandwidth

Configure the device bandwidth limit

Device Bandwidth Limit: Mbps (0 = no limit)

Device Bandwidth Target: Mbps (0 = disabled)

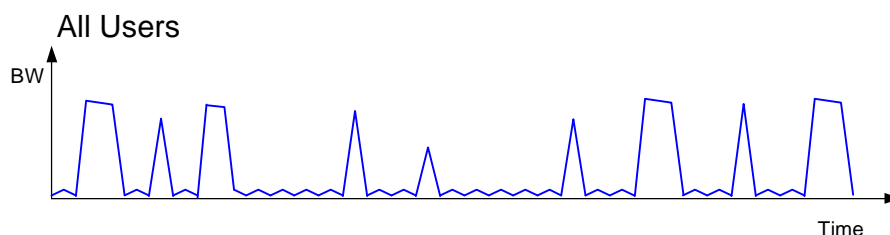
3. 制限無しをイネーブルするために、*Device Bandwidth Limited* フィールドに 0 を入力します。
4. 制限無しをイネーブルするために、*Device Bandwidth Target* field フィールドに 0 を入力します。
5. *Apply* ボタンを選び、変更を了承します。
6. 他の 3 人のユーザのホスト用に繰り返します。

各ユーザのバンド幅制限と目標は、0 Mbps (no limit)に設定されました。軽いグラフィック変化、及び異なる時間のピークネットワーク要求というユーザのタスクの性質により、フル 100Mbps バンド幅では、僅かな衝突があることが予想できます。ユーザはバンド幅をより効率よく共有し、バンド幅制限を守るためにイメージを犠牲にする状況を少なくする事が出来ます。

ネットワークが混雑している場合、PCoIP ファームウェアは共有ネットワーク上の公平性を保とうとするバンド幅適応アルゴリズムにより、自動的にバンド幅制限を軽減します。混雑が解消されると、ファームウェアは再度バンド幅制限をオープンします。

図 4-22 はこの例で 4 人のユーザに、制限無しの簡略化されたバンド幅使用の合計を示しています。この図はバンド幅は、図 4-19 の低い最高バンド幅制限を設定したケースと比べて、より効率よく共有されています。制限されないケースでは、各 PCoIP セッションは 100 Mbps までを使う機会があります。これはユーザに、より視覚的影響の少ない使用環境を提供します。

図 4-22: 簡略化されたユーザバンド幅要求(制限無し)



4.4 USB 承認の例

この例では、USB Permissions ウェブページの使用について説明します。特定のクラスの IEEE 互換双方向 USB プリンタ、及び特定のベンダ/プロダクト ID を承認するために、どのように管理者がドロップダウンメニューを使う事が出来るかを示しています。

次のセクションでは、クラスまたはデバイス ID によって USB デバイスを承認する手順を説明します。

4.4.1 クラスによる USB デバイスの承認

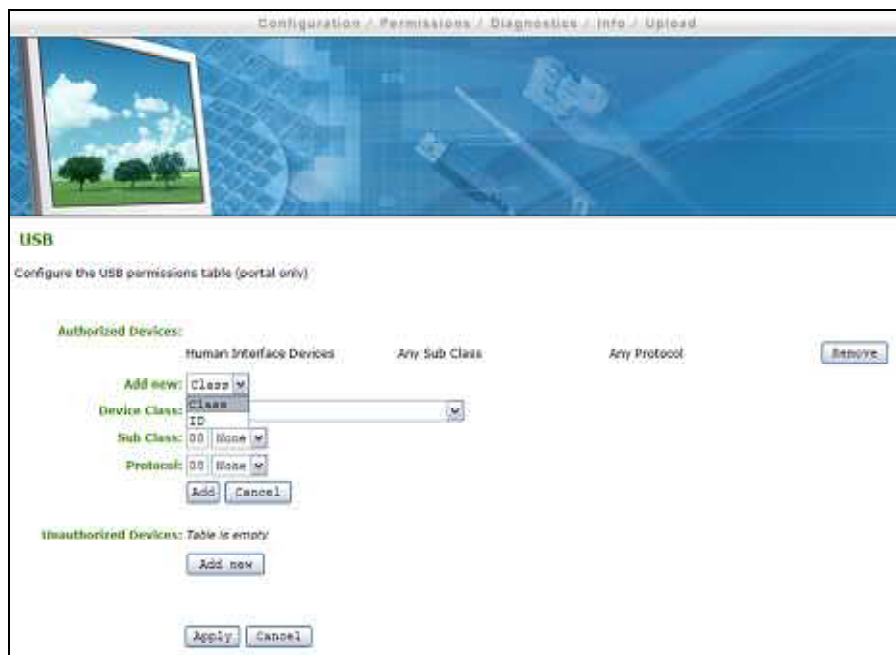
1. Authorization セクションで、*Add new* ボタンを選びます。

図 4-23: USB Permissions の例 : Add new ボタン



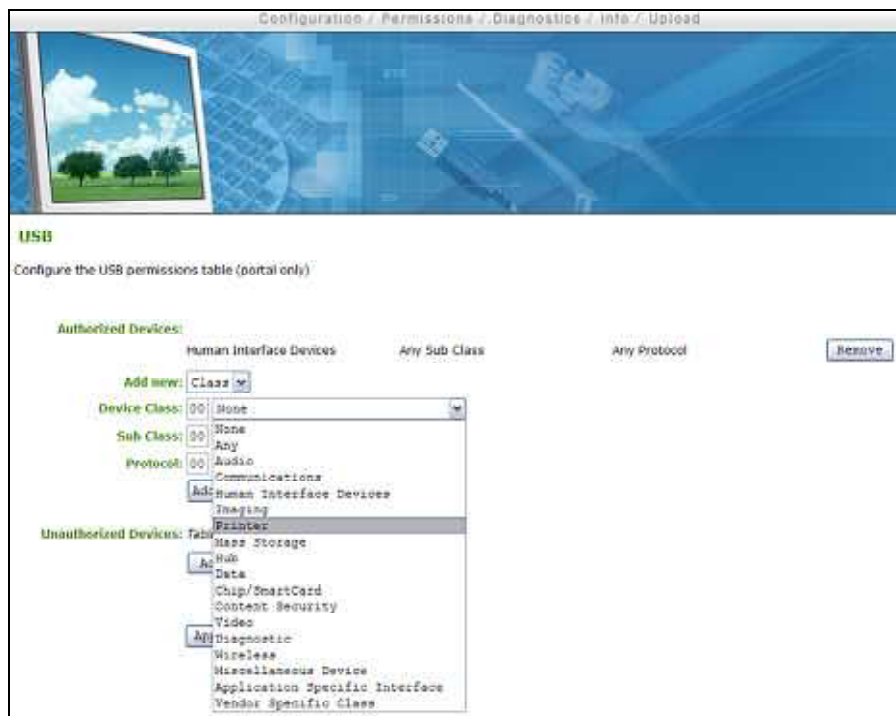
2. エントリフィールドが開いたら、デバイスのクラスを承認するために *Add New* ドロップダウンメニューから *Class* を選びます。

図 4-24: USB Permissions の例: Class Entry Type の選択



3. プリンタのクラスを承認するために、*Device Class* ドロップダウンメニューから *Printer* を選びます。

図 4-25: USB Permissions の例: Device Class の選択



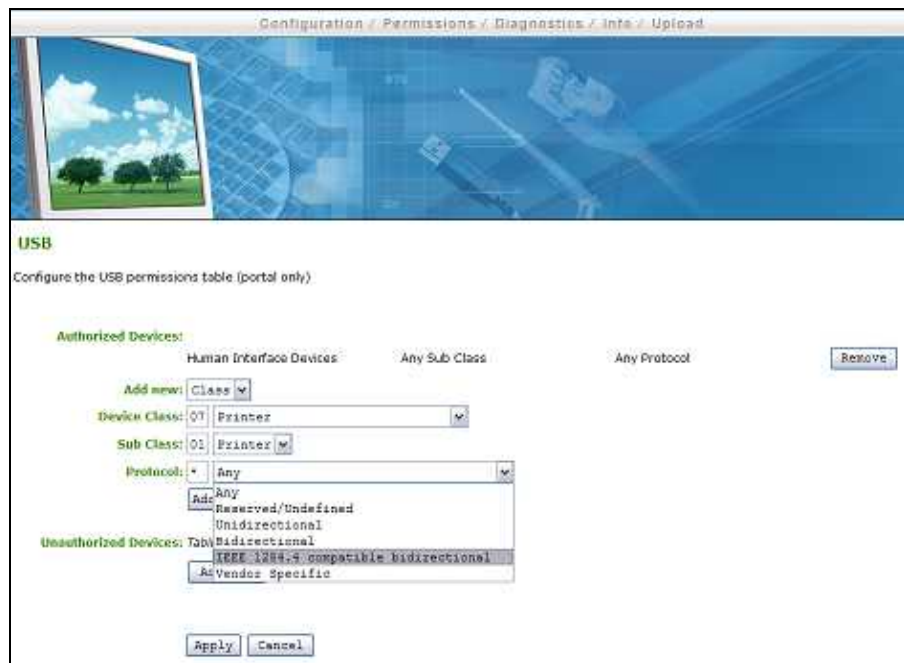
4. プリンタの特定のクラスを承認するために、*Sub Class* ドロップダウンメニューから *Printer* を選びます。(そうでなければ *Sub class* 及び *Protocol* は *Any* のままにします)

図 4-26: USB Permissions の例: Sub Class の選択



5. *Protocol* ドロップダウンメニューから、希望する IEEE 1284.4 互換双方向プロトコルを選びます。

図 4-27: USB Permissions の例: Protocol の選択



6. 変更をフラッシュに保存し設定を完了するために、*Apply* を選びます。

図 4-28: USB Authorization の例: Class 承認



4.4.2 Vendor/Product ID による USB デバイスの承認

1. Authorization セクションで、*Add new* ボタンを選びます。

図 4-29: USB Permissions の例: Add new ボタン



2. エントリーフィールドが開いたら、vendor/product ID によりデバイスを承認するために、*Add New* ドロップダウンメニューから *ID* を選びます。

図 4-30: USB Permissions の例: Class Entry Type の選択



3. 該当するフィールドに、USB デバイスの Vendor ID 及び Product ID を入力します。

図 4-31: USB Permissions の例: Vendor ID 及び Product ID の入力



4. 変更をフラッシュに保存し設定を完了するために、Apply を選びます。

図 4-32: USB Permissions の例: Vendor ID 及び Product ID の承認



5 付録 B: ポータル言語及びキーボードサポート

ポータルファームウェアは、様々な言語及びキーボードレイアウトをサポートする事が出来ます。

言語及びキーボードレイアウトの設定に関する情報は、ウェブインターフェース用にはセクション 1.6.8 Language に、OSD 用にはセクション 2.3.8 Language にそれぞれ記載されています。表 5-1 はサポートする言語をそして表 5-2 はサポートするキーボードレイアウトを記載します。(デフォルトには記述があります)

表 5-1: ポータルがサポートする言語

サポートする言語	English [デフォルト]
	French
	German
	Greek
	Spanish
	Italian
	Portuguese
	Korean
	Japanese
	Traditional Chinese
	Simplified Chinese

表 5-2: ポータルがサポートするキーボードレイアウト

サポートする キーボード	United States of America ISO-8859-1 [デフォルト]
	French Canadian ISO-8859-1 (アクセントキー)
	French ISO-8859-1
	French ISO-8859-1 (アクセントキー)
	French Dvorak-like
	French Dvorak-like (アクセントキー)
	German ISO-8859-1
	German ISO-8859-1 (アクセントキー)
	German Codepage 850
	Greek ISO-8859-7
	Japanese 106

Japanese 106x
Latin American
Latin American (アクセントキー)
Portuguese ISO-8859-1
Portuguese ISO-8859-1 (アクセントキー)
Italian ISO-8859-1
Spanish ISO-8859-1
Spanish ISO-8859-1 (アクセントキー)
Spanish ISO-8859-15 (アクセントキー)
Swiss-French ISO-8859-1
Swiss-French ISO-8859-1 (アクセントキー)
Swiss-French Codepage 850
Swiss-German ISO-8859-1
Swiss-German ISO-8859-1 (アクセントキー)
Swiss-German Codepage 850
United Kingdom ISO-8859-1
United Kingdom ISO-8859-1 (ctrl と caps 交換)
United Kingdom Codepage 850
United Kingdom Codepage 850 (ctrl と caps 交換)
United States of America ISO-8859-1 (アクセントキー)
United States of America ISO-8859-1 (ctrl と caps 交換)
United States of America dvorak
United States of America right-hand dvorak
United States of America left-hand dvorak
United States of America dvorakx
United States of America Emacs 最適化レイアウト
United States of America Traditional Unix Workstation

6 付録 C: ポータル RDP 互換性

ポータルファームウェアは Remote Desktop Protocol クライアントもサポートします。これは PCoIP エクスペリエンスよりも低いとしてイネーブルできます。以下の表 6-1 はポータル RDP クライアントの性能を示しています。RDP クライアントをイネーブルする事に関する情報については、セクション 1.6.5.2 Session Type、1.6.7 RDP、2.3.5.1 Session Type 及び 2.3.7 RDP を参照してください。

表 6-1: ポータル RDP の性能

RDP プロトコル	Version 5.2
サポートするターミナルサーバ	Windows XP, Vista, Server 2003, Server 2008, Linux XRDP
ディスプレイ解像度 (シングルモニタ)	800x600, 1024x768, 1280x768, 1280x1024, 1440x900, 1600x1200, 1680x1050, 1920x1200,
カラーの深さ	1 ピクセル当たり 8, 16, 24 ビット
RDP ポート	設定可能(デフォルトは 3389)
オーディオ	2 つの出力チャンネル(22.05 KHz で 16 ビット)
エクスペリエンスオプション	デスクトップ壁紙イネーブル/ディセーブル (ウェブ/OSD 及びコネクションブローカ経由により) ドラッグ中のウインドウ内容表示(コネクションブローカ経由のみ) メニューおよびウインドウアニメーションイネーブル/ディセーブル(コネクションブローカ経由のみ) テーマイネーブル/ディセーブル (ウェブ/OSD 及びコネクションブローカ経由により) ビットマップキャッシングのサポート
ポートリダイレクション	ポートリダイレクションサポート無し クリップボードリダイレクションサポート無し
ログオン	コネクションブローカは、セッションを開くときウインドウズログオンスクリーンをバイパスするためにユーザ ID とパスワードを渡す。
暗号化 (Windows Server 2003, Server 2008)	セキュリティレイヤ : - RDP セキュリティレイヤ => サポートあり - ネゴシエート => サポートあり 暗号化レベル : - ロー => サポートあり - クライアント互換 => サポートあり

	<ul style="list-style-type: none"> - ハイ => サポートあり - FIPS 準拠 => サポート無し
ネットワークレベル承認 (Vista)	サポートしない